# 令和元年度

# 年　　報

市立大町山岳博物館

# 目　　次


頁

令和元年度の活動から…… 1

Ⅰ　資料収集・保存管理事業…… 2

1　資料収集…… 2

2　資料保存管理…… 2

Ⅱ　調査研究事業…… 4

1　調査研究…… 4

Ⅲ　教育普及事業…… 5

1　展示…… 5

2　教育普及活動…… 8

3　執筆・出版…… 18

4　広報・宣伝…… 19

5　大町博物館連絡会…… 20

6　安曇野アートライン推進協議会 美術館・博物館部会…… 21

7　大町山岳博物館友の会…… 21

8　ライチョウ会議…… 23

9　長野県山岳総合センターとの連携事業…… 24

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業…… 25

1　動物飼育繁殖…… 25

2　植物栽培繁殖…… 27

3　付属園整備…… 27

4　公益社団法人日本動物園水族館協会…… 28

Ⅴ　その他…… 28

1　各種委員等の委嘱他…… 28

2　アルプス動物園との友好提携協定の締結…… 29

3　信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結…… 29

4　長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結…… 29

5　ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結…… 29

Ⅵ　運営…… 30

1　組織および職員構成…… 30

2　市立大町山岳博物館協議会…… 30

3　入館者状況…… 32

4　令和元年度予算・決算 …… 34

5　ミュージアムカフェ・ショップ…… 35

Ⅶ　関係条例規則等…… 36

1　市立大町山岳博物館条例…… 36

2　市立大町山岳博物館規則…… 38

3　大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱…… 40

Ⅷ　市立大町山岳博物館の使命…… 41

1　市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に…… 41

2　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念…… 41

3　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本方針…… 42

Ⅸ　施設…… 44

1　敷地面積…… 44

2　本館建物…… 44

3　付属施設…… 45

Ⅹ　利用案内…… 46

# 令和元年度の活動から

館 長　鈴木 啓助

平成 31 年 3 月 15 日に公開を始めたニホンライチョウの見学に訪れる来館者が増える中で、平成 31 年度を迎え、5 月 1 日には改元がなされ令和元年度となりました。

本年度の企画展としては、7 月 6 日～9 月 29 日の 3 ヶ月にわたり「北アルプスの山小屋」を開催しました。北アルプスの山小屋の多くは、近代登山の始まりとともに開設されその後も発展を続けており、現在ではわが国を代表する山小屋群を形成するまでになっています。本企画展では、担当学芸員によるミュージアムトークを開催するとともに、山小屋を建築史の視点で精力的に研究を進めている信州大学工学部の梅干野先生には、「建築からみた北アルプスの山小屋」と題する特別講演をお願いしました。山好きの来館者にとっては馴染みのある山小屋も、その歴史や建築物としての構造などを学ぶことにより、さらに得難い財産であると確認することができたようです。さらに、梅干野先生には上高地徳本峠小屋での現地見学会にも講師として同行していただきました。島々谷から徳本峠を目指すという、上高地へ向かう古くからの街道をご案内いただき、途中にある岩魚留小屋についても解説していただきました。徳本峠小屋は 2010 年に改築されましたが、1923 年に建築された小屋の一部はそのまま保存されており、登録有形文化財に指定されています。それらの経緯や冬期の多量の雪に対する備えなども実物を見ながら説明していただきました。徳本峠から上高地明神に下りて、徳本峠小屋と同じ時期に登録有形文化財に指定された嘉門次小屋と信州大学上高地ステーションの養魚池と囲炉裏小屋も見学することができました。近代登山の歴史を語る上で欠かせない存在で、現在の登山においても登山者の拠り所である北アルプスの山小屋を幅広く学ぶことができた企画展でした。

本年度の企画展は 1 本のみでしたが、令和 2 年度には 3 本の企画展を開催する予定です。

大型連休中には「付属園まつり」を開催し、多くの来館者の皆さんに楽しんでいただきました。また、夏休み中には、「さんぱくこども夏期だいがく」と「自然ふれあい講座 セミの抜け殻を探せ！」を開催しました。

調査研究事業としては、高山植物の生活史に関する研究や雪形伝承に関する調査などを行い、成果については展示や研究紀要論文として発表しました。出版事業としては、研究紀要の他に季刊の広報誌「山と博物館」を発行し市内全戸に配布しました。

教育普及活動の一環として、市内の小中学校をはじめとする学校で、学芸員等が授業・実習を 37 回担当いたしました。教育委員会所管の博物館として、小中学校との連携は重要な役割であると認識していますので、今後とも充実した企画を提供していきたいと考えています。

ニホンライチョウの飼育繁殖事業としては、1 ツガイから 7 羽の雛が誕生しましたが、4 羽が死亡し、3 羽が順調に成育しています。令和 2 年度も繁殖に取り組めるように担当学芸員と飼育員が準備しています。

友の会の皆様には、山岳博物館の事業で多方面からご支援いただき感謝いたします。友の会と当館で、講演会「チベット未踏峰登頂と高所順応」を共催させていただき、観察会として「針ノ木岳自然観察会」、「塩の道を歩く」、「ゆきんこの観察会」を開催していただきました。

以上、令和元年度に実施しました山岳博物館の主な事業についてご報告させていただきました。当館の事業を実施するにあたりましては、大町市民の皆様をはじめ、友の会の皆様、その他関係機関の皆様に大変お世話になりました。末筆ながら深くお礼を申し上げるとともに、引き続き当館の活動に更なるご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

# Ⅰ　資料収集・保存管理事業

## 1　資料収集

### (1) 新規収集資料

平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日の間に寄贈によって次の資料を収蔵した。

**①寄贈による収集資料**

内訳は、化石標本、地質標本、カクネ里氷河関係写真画像等、植物さく葉標本（自然科学系）6 件 1,217 点ほか一式、山岳資料、民俗資料、山岳図書資料（人文科学系）7 件 754 点である。

| №. | 受入日 | 資　料　名 | 数量 | 寄贈者 | 住　所 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 4 月 3 日 | 山岳資料（手塚順一郎関係アルバム他） | 203 点 | 個人 | 長野県北安曇郡小谷村 |
| 2 | 5 月 22 日 | 山岳資料（ベント製ピッケル） | 1 点 | 個人 | 東京都立川市 |
| 3 | 5 月 24 日 | 山岳図書資料（日本アルプスと秩父巡禮 他） | 136 点 | 個人 | 群馬県桐生市 |
| 4 | 8 月 8 日 | 山岳資料（焼印付き無銘ピッケル他） | 2 点 | 個人 | 長野県長野市 |
| 5 | 9 月 7 日 | 山岳資料（ウィリッシュ製ピッケル） | 1 点 | 個人 | 大阪府茨木市 |
| 6 | 9 月 17 日 | 筑北村青木層産魚類化石群 | 7 点 | 個人 | 長野県上田市 |
| 7 | 9 月 19 日 | スバールバル諸島のペルム/三畳系地質標本 | 359 点 | 個人 | 高知県南国市 |
| 8 | 9 月 21 日 | 世界各地ならびに日本各地の代表的地質標本 | 229 点 | 個人 | 長野県松本市 |
| 9 | 10 月 20 日 | ［旧］カクネ里雪渓（氷河）学術調査団および調査団員が撮影した写真画像および関係画像等 | 一式ほか 2 点 | ［旧］カクネ里雪渓（氷河）学術調査団 | 長野県松本市（調査団長） |
| 10 | 11 月 22 日 | 植物さく葉標本 | 301 点 | 個人 | 長野県松本市 |
| 11 | 12 月 26 日 | 山岳図書資料（たをり 他） | 408 点 | 個人 | 長野県北安曇郡松川村 |
| 12 | 2 月 21 日 | 民俗資料（マエビキノコ 他） | 3 点 | 個人 | 長野県大町市 |
| 13 | 3 月 20 日 | 長野県産中新世・鮮新世・白亜紀化石標本等 | 319 点 | 個人 | 長野県松本市 |

**②購入・製作による収集資料**　※博物館資料としての購入・製作した備品扱いの物品のみ（消耗品扱いの図書資料は除く）。

該当なし。

## 2　資料保存管理

### (1) 収蔵資料

**①自然科学系資料**

| 分類名および点数 | | 自然科学系　　合計　18,242 点 | |
|---|---|---|---|
| 蘚苔類（乾燥標本） | 674 点 | 哺乳類（剥製・骨格標本） | 242 点 |
| 維管束植物（液侵標本） | 7 点 | 鳥類（剥製標本） | 662 点 |
| 維管束植物（さく葉標本） | 8,500 点 | 昆虫（標本ドイツ箱） | 258 点 |
| 魚類（液浸標本） | 62 点 | 昆虫（未標本作製資料を含む） | 4,600 点 |
| 両生爬虫類（液浸標本等） | 72 点 | 昆虫（液浸標本） | 27 点 |
| 貝・甲殻類（液浸標本） | 13 点 | その他液浸標本（調査研究資料） | 103 点 |
| | | 岩石、鉱物・鉱石、化石等（地質標本） | 3,022 点 |

②人文科学系資料

| 分類名および点数 | | 人文科学系　　合計　11,692 点 | |
|---|---|---|---|
| 山岳 | 9,863 点 | 寄託（山岳、美術） | 409 点 |
| 民俗 | 958 点 | （寄託内訳） | |
| 美術 | 249 点 | 個人寄託　160 点※ | |
| 美術（尾竹正躬関係） | 201 点 | ※うちピッケル関係　93 点 | |
| 歴史 | 12 点 | 団体寄託　249 点 | |

③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

| 分類名および点数 | | 自然科学系　　合計　6,649 点 | |
|---|---|---|---|
| 自然科学系一般図書資料 | 6,430 点 | 自然科学系一般ＡＶ資料 | 219 点 |

④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

| 分類名および点数 | | 人文科学系　　合計　35,176 点 | |
|---|---|---|---|
| 人文科学系一般図書資料 | 27,582 点 | 人文科学系一般ＡＶ資料 | 267 点 |
| 山岳資料としての図書資料（注[1]） | 7,327 点 | | |

（注[1]）④記載の山岳資料としての図書資料点数は、②記載の人文科学系の山岳資料点数に含む。

⑤収蔵資料の点数

総計 64,432 点（令和 2 年 3 月 31 日現在）

⑥現状と課題

a. 自然科学系

前年度に引き続き、大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」のメンバーに台紙へのマウント作業を依頼し、2,500 点余りの登録および配架が完了した。これまでの登録を合わせると、約 8,500 点にのぼり、そのうち、2,000 点についてミュージアムネット（S-net）に情報提供を行った。

b. 人文科学系

昭和 26 年の開館以降の未整理の山岳資料及び民俗資料が多数あり、また、現在も年間を通じて新規の寄贈を受けており、毎年継続的に相当量の資料整理・登録作業の必要性が生じている。担当学芸員と事務員を兼務する資料整理員によって通年での作業を随時継続実施しているが、新規受入資料や過去の未整理資料の量に対し、整理作業が追い付いていない状況にある。登録博物館として博物館法に定める事業を実施していく中で、資料収集・保管は基礎的な事業に位置づけられており、博物館活動を行う上で、資料整理・登録業務は常時継続的に実施していくことが求められる。今後も引き続き、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。

増加傾向にある寄贈の打診時に、受入の可否を客観的に判断できるひとつの根拠資料とすべく、資料収集に関して、資料受入に関する一定の基準をもうけた内規の作成を検討する必要がある。

なお、山岳博物館では、これまで収蔵資料の目録が整備されていない状況であったため、平成 26 年度以降、人文科学系の収蔵資料目録を作成、当館公式ホームページ上で一般公開を行っている。公開する目録については PDF データとし、ホームページ制作委託業者によるメンテナンスにあわせて、最新のデータに毎年更新を行っている。

(2) 保存管理

資料の保管にあたっては、忌避剤やフェロモントラップを定期的に入れ替え、害虫の進入を予防した。

山岳図書資料館への資料搬入には、本年度も事前に浸透性の高いフッ化スルフリル系製剤（ヴァイケーン薬剤）により 24 時間の包み込み燻蒸を行った。

展示室や収蔵庫を含め、資料の保存管理環境に関し、博物館レベルの水準に近づけるための維持管理にともなう日常業務の作業量増加や、施設の老朽化に伴う対処業務の事務量増加への対応を検討するとともに、将来を見通した抜本的な施設改修計画を策定する必要がある。同時に、事業全体の中での展示・収蔵環境の維持管理の位置づけを再確認するとともに、分野ごとの担当業務量のバランスを考慮した上で、PDCA サイクルや D-OODA ループによる個別事業と事業全体の再評価と業務の効率化を一層図るなどの業務改善を継続実施することが重要である。

# Ⅱ　調査研究事業

## 1　調査研究

**(1) 高山植物の生活史に関する研究**（担当：千葉悟志）

本年度は、7 月 23 日～25 日に白馬岳において、ミヤマオダマキに訪花する昆虫相の調査を実施した。その結果、訪花及び吸蜜する昆虫は一切確認することができず、結実は自家受粉あるいは無融合生殖をおこなっている可能性が考えられた。

なお、調査には大町山岳博物館友の会会員 2 名に協力いただいた。

10 月に白山高山植物園の協力を得て約 20 種の種子提供を受け、当年に播種した。

また、これまで発芽した個体をニホンライチョウ舎のまわりに植え込み、高山植物を観察できるエリアを拡張した。

**(2) 大北地域の植物分布調査**（担当：千葉悟志）

長野県の植物相を把握するため、県下で実施されている植物調査のうち、山岳博物館は今年、池田町の里山および河川（高瀬川）を中心に 4 月～10 月の間、計 5 回調査を行った。調査の際には見直しができるように標本を採取した。これらの標本は証拠として山岳博物館植物標本庫に配架予定である。

また、得られた新知見等は今後、山岳博物館研究紀要または長野県植物研究会誌等で発表される予定である。

なお、観察会には地域の核となるべく人材育成を兼ね、大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」の会員が参加し、長野県植物研究会会員が指導を行った。

**(3) ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究**（担当：宮野典夫・栗林勇太）

ニホンライチョウ及びスバールバルライチョウにおける基礎調査として、飼育舎内における年間を通した温度・湿度・紫外線強度・日照度の測定を継続している。また、定期的な体重測定、採餌量の測定、換羽した羽の枚数の測定を行っている。

両亜種に関する研究として、ライチョウ類飼育園館、日本獣医生命科学大学、岐阜大学、中部大学、東京農業大学と連携を行いながら共同研究を進めている。今後も関係機関と連携を図り、ライチョウの保全事業に必要と考えられる調査研究を行っていく。

協同研究では無精卵や未発生卵の検査、クレアチニン／尿酸比の季節的検査を日本獣医生命科学大学と、糞中に含まれるホルモン測定による温度、日照時間等の関係を岐阜大学、腸内細菌叢については中部大学と、落下羽を活用した羽の色変化と落下部位に関しては東京農業大学と一緒にデータ集積と解析を進めている。

**(4) 博物学に関する現地調査計画**（担当：関悟志）

山岳博物館では令和 2 年度、博物学に関する企画展の開催を計画している。企画展開催に向けて、これまで実施してきている関係資料情報の収集（一次資料、二次資料の確認）や文献調査を補完するため、関係する山域の記録調査を昨年度に引き続き実施した。

本調査〈令和元年 7 月 25～27 日　白馬岳方面（白馬岳～雪倉岳～朝日岳）、9 月 11・12 日　祖母谷方面（唐松岳～餓鬼山～祖母谷温泉）〉では、企画展でとりあげる予定の明治期の渡邊敏らの白馬岳登山、吉澤庄作らの祖母谷から白馬岳周辺登山について現地調査を行い、現地の様子を確認して撮影記録することで、展示パネルや解説書に掲載する参考写真に供する。あわせて、現地周辺において、当館の人文科学系常設展示にかかわる山岳景観や山岳文化史跡等のほか、自然科学系の基礎資料とするため自然環境の現地確認・撮影記録を行った。

**(5) 爺ヶ岳「タネマキジイサン」雪形伝承に関する資料調査**（担当：関悟志）

本調査研究については、昨年度研究紀要において端緒など作業の一部を研究ノートとして短報により報告したが、本年度研究紀要において原著論文にまとめて掲載した。

# Ⅲ　教育普及事業

## 1　展示

### (1) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人とが共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

**①展示テーマおよび展示資料点数**　総計 1,110 点（令和 2 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 551 点、人文科学系　合計 559 点）

| 展示テーマ | 資料点数※[1] | 展示テーマ | 資料点数※[1] |
|---|---|---|---|
| ３階　展示室　「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン | | | 計 104 点 |
| 大町のプロフィール | 24 点 | 大町の空からマップ | 1 点 |
| 後立山連峰のパノラマ | 1 点 | 山頂の石たち | 5 点 |
| 北アルプス後立山連峰の山々 | 20 点 | 雪形の伝承 | 27 点 |
| 山の伝説 | 7 点 | 「北アルプスの自然と人」映像 | 1 点 |
| つながりプロローグ | 18 点 | | |
| ２階　ホール　「山の成り立ち」ゾーン | | | 計 80 点 |
| 水の惑星・地球 46 億年の生い立ち | 36 点 | 日本列島の生い立ち | 1 点 |
| 驚きのフォッサマグナ | 18 点 | 驚きの北アルプス | 23 点 |
| 「北アルプスの生い立ち」映像 | 1 点 | 中部地方衛星写真 | 1 点 |
| ２階　展示室　「山と生きもの」ゾーン | | | 計 466 点 |
| 立山の氷河・カクネ里雪渓・いまを生きる生物 | 3 点 | 里山から高山までの生物 | 247 点 |
| ニホンカモシカ | 9 点 | ライチョウ | 62 点 |
| 渓谷の生物 | 35 点 | 湖の生物 | 49 点 |
| 湿原の生物 | 55 点 | ライチョウの捕食者 | 6 点 |
| １階　展示室　「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン | | | 計 429 点 |
| 山の魅力 | 7 点 | 北アルプスと人とのかかわり年代記 | 7 点 |
| 峠を越える ―針ノ木峠の歴史― | 39 点 | 山に暮らす ―山の恵みと山村の暮らし― | 87 点 |
| 山に祈る ―山の信仰― | 20 点 | 「山と人」映像 | 1 点 |
| 大町山岳人列伝 | 10 点 | 山を測る ―測量― | 5 点 |
| 山を調べる ―博物学― | 23 点 | 山を描く ―絵画― | 8 点 |
| 山を写す ―写真― | 21 点 | 山で学ぶ ―日本の近代登山― | 145 点 |
| 山に住まう ―山小屋の変遷― | 28 点 | 登山の道具 | 23 点 |
| 山とのかかわりの窓 | | つながりコラム | 5 点 |
| １階　エントランス・ホール | | | 計 8 点 |
| 「北アルプスの自然と人」導入 | 1 点 | 山とわたしたちの未来 | |
| 新・對山館サロン | 1 点 | こどもひろば | 6 点 |
| １階　特別展示室　「山と美術 ―山岳風景画とウッドシャフトピッケル―」※[2] | | | 計 23 点 |
| 山岳風景画 | 18 点 | ウッドシャフトピッケル | 5 点 |

※[1] 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。

※[2] 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

**②常設展示の多言語対応**（担当：関悟志）

常設展示の説明文について多言語対応を検討し、3～1 階の各展示フロア・コーナーの概要、1 階展示室及び特別展示室内に常設展示中の資料名部分について英文表記を追加した。また、現行の英文パンフレットについても和文に対する適切な英語表現となるように改訂案を作成した。なお、英文表記は、和歌山大学国際観光研究センター講師のチャクラバルティー・アビック氏に校正を行っていただいた。

(2) 企画展示

①市立大町山岳博物館 令和元年度企画展

「北アルプスの山小屋」(担当：清水隆寿)

a. 会　期：令和元年7月6日（土）～9月29日（日）　※開催日数：延べ82日間

b. 会　場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. 概　要：令和元年度山岳博物館企画展として、「北アルプスの山小屋」の歴史と建築に焦点をあて、北アルプスに建設された代表的な山小屋の建築や地形利用の特色を解説するとともに、北アルプスに現在営業されている現存する120余りの山小屋から、大町の山小屋を中心にその小屋が創設されるにいたった歴史を紹介し、山小屋を通じ、山への理解・関心を深めていただく機会とした。

d. 展示構成：(1) 日本の山小屋 ①山小屋とは ②生業のための小屋 ③信仰のための小屋 ④近代登山と山小屋 ⑤山小屋はどのようにできてきたか ⑥文化遺産としての山小屋　(2) 山小屋の建築 ①石造の山小屋（岩小屋） ②石造の山小屋（石室） ③木造の山小屋 ④高所へ、そして大規模な建築へ（歩荷による材木の運搬）　(3) 国立公園と山小屋 ①国立公園 ②国立公園協会 ③建築家 岸田日出刀 ④殺生小屋と西岳小屋　(4) 大沢の石室 ①百瀬慎太郎 ②對山舘 ③大町の山と登山案内 ④大沢小屋 ⑤大沢の石室 ⑥餓鬼岳小屋 ⑦長野県令による10の石室 ⑧穂高・涸沢小屋の建設　(5) 北アルプスの山小屋の歴史 ①大町市内山小屋の歴史（餓鬼岳小屋、晴嵐荘、三俣山荘、水晶小屋、雲ノ平山荘、野口五郎小屋、烏帽子小屋、船窪小屋、針ノ木小屋、大沢小屋、新越山荘、種池山荘、七倉山荘等）に関する展示を行った。

e. 入館者：7,990人（有料6,635人、無料1,355人）

f. 関連事業

ア　企画展 ミュージアムトーク（担当：清水隆寿）

・開催日：令和元年7月6日（土）、8月18日（日）、9月15日（日）
　　開催時間は、各日とも午前10時～・午後2時～　各回1時間程度

・場　所：市立大町山岳博物館 特別展示室

・参加者：令和元年7月6日（土）　大人17人
　　8月18日（日）　大人12人
　　9月15日（日）　大人4人

・概　要：企画展示の概要説明を、上記日程で行った。30分の予定でご案内をさせていただいたが、参加者からの熱心な質問があり、各回とも1時間程度の解説を行った。また参加者は各回とも展示解説を聞きたいとの目的をもって来館された方がほとんどであった。

・所　見：解説に当たっては、次の3部構成の流れで解説を行った。①山小屋が建設されるようになる時代的背景 ②日本の山小屋の特色 ③大町の山小屋の歴史。

イ　企画展 特別講演会「建築からみた北アルプスの山小屋」（担当：清水隆寿）

・開催日：令和元年8月31日（土）～9月1日（日）　開催時間は午後1時30分～3時30分

・場　所：市立大町山岳博物館 講堂

・講　師：信州大学工学部准教授 梅干野成央氏

・参加者：大人35人

・概　要：本年度開催の企画展「北アルプスの山小屋」展の関連イベントとして開催し、これまで信州大学建築学科において実施してきた北アルプスの山小屋調査でわかった最新成果を解説いただく機会とした。近代登山の普及以前から信仰や生業のために多くの山小屋が造られていた。そうした山小屋にはどのような種類の建物があり、近代になって造られはじめた初期の登山者向けの山小屋にどのような建築上の影響を与えたのか。その後登山の隆盛に伴いどれほどの山小屋が造られ、昭和6年に制定された国立公園の誕生の精神が山小屋建設にどのような影響を与え、現在に至る山小屋へと変化を遂げていったのか、残された山小屋の建築から北アルプスの山小屋の特徴についてお話を伺う機会とした。

・所　見：参加者からは、「山小屋の建築の歴史に興味がわくような講座でとても良かった。次回、登山にいって宿泊した時は、山小屋を建築の面で改めて見直してみたいという興味が湧いてきた。」といった感想が聞かれました。山小屋の歴史だけではなく、建築的な価値についてわかりやすく語りかけ、それら建造物を保存する意義について、長年の調査にもとづいて説得力ある解説をしていただき有意義な講演会となった。

ウ　企画展現地見学会「上高地徳本峠小屋ほか現地見学会」（担当：清水隆寿・鈴木啓助・関本景香）
・**開催日**：令和元年８月 31 日（土）～9 月１日（日）
・**場　所**：宿泊 徳本峠小屋
・**共　催**：大町山岳博物館友の会
・**参加者**：大人 18 名、講師１名、博物館職員３名
・**行程概要**：8 月 31 日、松本市安曇島々の松本市役所安曇支所に集合の後、徳本峠に向かった。島々谷遡行－二俣－岩魚留小屋見学－徳本峠小屋宿泊。
9 月１日（日）、徳本峠小屋見学－嘉門次小屋到着－穂高神社奥宮－旧上高地孵化場見学ビジターセンター見学・河童橋周辺自由散策－上高地バスターミナル－安曇支所にて解散。
・**所　見**：前夜までの雨続きにより島々谷川の荒れ模様で開催も危ぶまれたが、当日は２日とも天気に恵まれ、計画されていたルートを滞りなく見学し、けが人もなく無事終了することが出来た。しかし登山開始時間が諸般の事情により、遅く出発せざるをえなかったのと、想定より登山時間が長くかかってしまい、宿泊を予定していた徳本峠小屋にはご迷惑をかけてしまう結果となった。歴史的な山小屋が上高地には比較的まとまっているということで、今回現地見学会を開催した。写真ではなく、自分の足で現地まで歩き、山小屋がどのように所に建設されていて、保存状態はどうなっているのか、あるいは実際に現在はどの様に利用されているのかを自分の目で見ることができ、加えて建築の専門の講師により丁寧な説明を受け、山小屋の歴史的な価値に気づいていただける機会となり、所期の目的は達成できたのではないかと思う。

**(3) さんぱく研究最前線 ―北アルプスの自然と人 トピックス―**（担当：関悟志）

山岳博物館２階ホールにおいて､博物館からの最新の研究成果や話題性のある情報をパネルにして、3 ヶ月ごとに内容を入れ替えながら、来館者の皆様に展示をご覧いただくコーナーとして、平成 26 年の展示改修より開始されたパネル展示。博物館での展示が終了しだい、大町市役所 1 階市民ホールにて約２週間それぞれ同パネルの出張展示（移動展示）を実施した。

なお、パネル展にあわせて、展示期間中に発行する広報誌『山と博物館』に展示内容を紹介する特集ページを掲載した。

**①テーマ「機能から考える花のつくり ―カキツバタ―」**（担当：千葉悟志）
a. **会　期**：当館 2 階ホール展示　平成 31 年４月２日（火）～令和元年６月 30 日（日）
市役所 市民ホール展示　令和元年８月 13 日（月）～23 日（金）
b. **掲載誌**：『山と博物館』2019 夏号（第 64 巻第２号）

**②テーマ「山の名前のふしぎ ―山名由来の類型、山名変遷と定着―」**（担当：関悟志）
a. **会　期**：当館 2 階ホール展示　令和元年７月１日（月）～9 月 29 日（日）
市役所 市民ホール展示　令和元年 11 月 18 日（月）～29 日（金）
b. **掲載誌**：『山と博物館』2019 秋号（第 64 巻第３号）

**③テーマ「ライチョウとコアラは親戚？！ ―野生復帰への課題と解決への取り組み―」**
（担当：栗林勇太）
a. **会　期**：当館 2 階ホール展示　令和２年１月４日（土）～3 月 31 日（火）
市役所 市民ホール展示　令和２年４月６日（月）～17 日（金）
b. **掲載誌**：『山と博物館』2020 春号（第 65 巻第１号）

**(4) 移動展示**

**①「第 15 回 安曇野アートライン展」への参加と協力**（担当：関本景香）
a. **会　期**：令和元年 11 月 23 日（土・祝）～12 月 22 日（日）
b. **会　場**：国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区 あづみの学校多目的ホール（安曇野市）
c. **概　要**：安曇野アートライン推進協議会加盟の美術館・博物館の作品や紹介パネル等を一堂に展示し、各館所蔵の芸術作品の鑑賞及び出展館の由来や歴史などを通してアートの世界を体感していただいた（主催：アルプスあづみの公園マネジメント共同体、共催：安曇野アートライン推進協議会）。
また、本展開催期間中、あづみの公園とアートライン加盟館の利用促進を目的として、各館を巡る「アートライン・スタンプラリー」を実施。本年度、当館からは、日本山岳会や日本山岳画協会に所属した牧潤一が北アルプスを題材に描いた水彩画スケッチ「残雪の常念岳」（29×38㎝）など同作者の作品７点を出展。 また、スタンプラリーにも参画し、景品としておおまぴょんオリジナルクリアファイル５枚を提供。なお、会期中の入場者数は 7,206 人（1 日平均 277 人）であった。

## 2　教育普及活動

### (1) 学習会等の開催

**①市立大町山岳博物館・長野県山岳総合センター・大町山岳博物館友の会 共催事業**

**平成 31 年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会**

**「チベット・シュエラプカンリ初登頂と高所順応」**（担当：清水隆寿）

a. **共　催**：長野県山岳総合センター　大町山岳博物館友の会

b. **開催日**：平成 31 年 4 月 21 日（日）

c. **場　所**：市立大町山岳博物館 講堂

d. **対　象**：大町市民・友の会会員　大人～子ども　定員 50 人

e. **参加者**：37 人

f. **概　要**：平成 31 年度博物館友の会総会にあわせ、記念講演会と位置付け、山岳博物館との共催事業として開催した（長野県山岳総合センターとの連携事業にも位置づけ、同センターも共催）。参加対象者を友の会員に限定せず、広く一般の方々を対象に開催し、友の会あるいは博物館の事業を多くの方に知っていただく、そんな機会にしていきたいと考え開催した。

　今回の講演会では、平成 30 年 9 月に長野県山岳協会と西蔵（チベット）登山協会による友好兄弟協定締結 30 周年を記念して行われた、初登頂チベット・シュエラプカンリ峰登頂に関する講演会を、登攀に参加された 2 名の協会員を講師に招き、登山に至った経緯のほか、登山報告、そしてチベットの風土や習慣などを紹介していただいた。講演では多くのスライドを用意いただき、中国やチベットの登山事情や風土や習慣、街並みや人々の暮らしの状況などのお話もしていただいた。また今回の山行にあっては短期間に高所に馴致し、高所順応を成功させるために新たに開発した低圧酸素の環境を創り出して事前準備を重ねられてきたことを伺い、また講演会後半では実際に酸素の少ない環境を再現した高所疑似体験を順番に体験させていただく貴重な機会となった。

g. **講　師**：長野県山岳協会特任理事 杉田浩康氏、同副会長 西田均氏

h. **所　見**：今回の講演内容については、世界の登山に目を向ける機会として、また講師が地元で活躍する登山家ということで、更に世界の山々を身近に感じていただける機会となったのではないかと感じた。実際に自身の手で登山の事前準備や現地との交渉など苦労話もお聞きするとともに、自身がチベットの街を歩き、登山をされたご自身による体験談が参加者に大きな感銘を与えた。今後も世界の山々で登攀を重ねている方々に、生の声をお伝えできる機会を増やしていきたいと考えている。

i. **その他**：当日は、記念講演会に先立って、友の会総会が開催された。

**②ふぞくえんまつり**（担当：栗林勇太・遠藤モナミ・多田晴彦・小里玲奈・唐澤紗波）

a. **会　期**：平成 31 年 4 月 27 日（土）～令和元年 5 月 6 日（月・祝）

b. **会　場**：市立大町山岳博物館 付属園（ミュージアムトークのみ講堂）

c. **参加者**：延べ 3,187 人（子ども～大人）

| | | |
|---|---|---|
| （内訳） | 「ふぞくえんスタンプラリー」 | 424 人 |
| | 「ミュージアムトーク」 | 43 人 |
| | 「どうぶつ観察ツアー」 | 20 人 |
| | 「ライチョウガイド」 | 2,702 人 |

d. **概　要**：展示動物を絵柄にした手作りスタンプを押して集める「スタンプラリー」、ライチョウの公開を記念してライチョウと高山植物について学芸員が解説する「ミュージアムトーク」、展示動物を解説しながら園内を巡る「観察ツアー」、ライチョウの生態や保全について解説を行う「ライチョウガイド」の 4 つの催し。山岳博物館では、開館間もない昭和 28 年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成 9 年度から大北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかわる市民対象の各種催しを実施する期間を「ふぞくえんまつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

　本年度は、展示動物を解説しながら園内を巡る「どうぶつ観察ツアー」、展示動物を絵柄にした手作りスタンプを押して集める「ふぞくえんスタンプラリー」、ライチョウの公開を記念してライ

チョウや高山植物について学芸員が解説する「ミュージアムトーク」とライチョウの保全や生態について解説する「ライチョウガイド」の４つのイベントを実施した。

e. **所　見**：「ふぞくえんスタンプラリー」では子どもに限らず、大人も参加する姿がみられ、記念として付属園内を回る際のアクセントとして非常に有効であったと考える。ライチョウの見学に多くの来館者が来られたことから、随時解説を行う「ライチョウガイド」やより細かい内容について説明した「ミュージアムトーク」は保全への関心や当館の事業を理解していただく上で有効であったと考える。さらに、「どうぶつ観察ツアー」では動物の生態について解説を加えることで、付属園の役割や傷病鳥獣救護といった観点にとどまらず自然への関心を深める機会となり、ライチョウを含めた自然環境保全への入り口としての機能を果たし、全体として催しが関連を持ちながら実施することができた。

一方、課題として「ミュージアムトーク」「どうぶつ観察ツアー」についてはどちらも観覧者の少ない午前の参加が少なく、観覧者の多い午後には参加者が増加したことから、事前に当館の催しを知って参加された方が極めて少なく感じた。今後は、各催しについて具体的な周知方法の検討が必要となる。また、イベントの実施日について、最終日の参加者が少ないことから最終日は避けるなどの工夫を行い、十分に検討して決定したい。

**ア　「ふぞくえんスタンプラリー」**

付属園内に設置したオリジナルスタンプを楽しみながら押して集めることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園に親しんでいただく。

・開催日時　４月 27 日（土）～5 月 6 日（月・祝）　《10 日間》

**イ　「ミュージアムトーク ～旬な話題 ライチョウ・高山植物」**

高山植物とライチョウについて学芸員によるミュージアムトークを行い、高山の自然環境や保全について学んでいただく機会とする。

・開催日時　５月１日（水）　高山植物 午前 10 時～ ライチョウ 午後 2 時～

**ウ　「どうぶつ観察ツアー」**

来園者と一緒に学芸員が付属園の飼育動物を解説しながら園内を回ることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園の役割を理解していただく。

・開催日時　５月５日（日）　午前 10 時～ 午後 2 時～（各 30 分程度）

**エ　「ライチョウガイド」**

一般公開の始まったライチョウについて、展示されている生体のライチョウを見ながら生態や保全の取り組みについて解説を行うことで、ライチョウやその生息する高山生態系の保全について理解を深めていただく機会とする。

・開催日時　４月 27 日（土）～5 月 6 日（月・祝）　午前 11 時～午後 3 時（公開時間に随時実施）

**③さんぱくこども夏期だいがく**

**「親子の化石教室 信州に海があった頃」**（担当：矢野孝雄・栗林勇太）

a. **期　日**：令和元年８月４日（日）

b. **時　間**：午前 10 時～正午

c. **会　場**：小川村小根山立屋（立屋展望広場～付近の林道）

d. **内　容**：小川村で 500 万年前の浅い海の地層を観察し、化石を採集。大地のつくりと変化を体感・学習。

e. **参加者**：親子 10 組 34 人　※内訳：子ども 20 人（中学生２人・小学生人 14 人・未就学児４人）、保護者 14 人

**④自然ふれあい講座 みんなで温暖化ウオッチ「セミのぬけがらを探せ！」**（担当：栗林勇太）

（「長野県環境保全研究所 令和元年度自然ふれあい講座」を兼ねて開催）

a. **開催日**：令和元年８月７日（水）

b. **共　催**：長野県環境保全研究所

**協　力**：自然観察指導員長野県連絡会、セミの抜け殻しらべ市民ネット

c. **場　所**：大町公園周辺 及び 当館 講堂

d. **参加者数**：小学生 17 人・大人 11 人　合計 28 人

e. **概　要**：長野県内で身近なところで起きている自然の変化の記録を持ち寄り、本当に温暖化などの変化が起きているのかを、セミの抜け殻を探す調査や観察を通して、地球環境の在り方を考えていただくことを目的に開催した。大町での開催は令和元年度で 7 回目となる。本年度も大町市以外に長野県下５ヶ所（長野市・上田市・松本市・伊那市・飯田市）にて同様の調査を継続している。

f. 所　見：見つかった抜け殻343個のうち、アブラゼミ281個、ミンミンゼミ12個、ニイニイゼミ3個、ヒグラシ19個、エゾゼミ22個、コエゾゼミ1個、エゾハルゼミ1個、不明4個であった。

普段セミの抜け殻を見たり集めたりしない子どもには、体験したことのない抜け殻探しを通して、抜け殻の種類の多さやセミの行動や一生について学ぶ良い場となった。また、温暖化によるセミの種類の変化などをより深く理解してもらえた。

図鑑ではなく実物を子ども自らの手で採集し、その抜け殻の形から種類を同定することで、自然環境やそこに生息する動物への興味関心を引き出すことができた。地球温暖化によって、今回捕まえたセミが来年にはいなくなる可能性があることや、逆に今までにいなかった新たな種が見られる可能性があることなど、環境の変化とそこに生息する動物の変化を関連付けて学べる貴重な場であった。

20 名の募集のところ 28 名の参加があり、実施以来最高であった。がったつうしんや広報おおまち、夏休み直前に市内小学校にチラシを配布し、ホームページ上で広報をするなど、様々な方法で広報を行ったことが集客につながったものと考えられる。

継続してモニタリングすることで温暖化の影響を把握ができることに加え、子どもに自然への関心を持ってもらうための有効な手段であることから、次年度以降も継続して実施していきたい。

**⑤市立大町山岳博物館「常設展スペシャルガイド」**（調整：清水隆寿）

a. **開催日及び参加者数**：令和元年11月～令和2年3月の家庭の日　合計5日間

令和元年11月17日(日)：人文・自然　参加者なし
令和元年12月15日(日)：人文・自然　参加者 2人
令和2年1月19日（日）：人文・自然、参加者なし
令和2年2月16日（日）：自然・自然　参加者55人
令和2年3月15日（日）：人文・自然　参加者 1人

b. **場　所**：市立山岳博物館 常設展示室

c. **対　象**：大町市民・友の会会員・来館者

d. **概　要**：博物館スタッフにより、各専門分野をより深く掘り下げ、常設展示の解説を、家族と共に博物館で楽しんでいただけるよう、市民無料入館日の「家庭の日」に合わせて開催した。昨年に引き続き2年目の開催。

博物館スタッフの人文と自然科学の担当者が1名ずつ組み、希望者の時間帯に合わせて60分程度の解説を実施した。

e. **所　見**：冬季間の入館者対策として、月1回の「家庭の日」に合わせて開催を行ったものであるが、参加希望者が少なく、当初想定をしていた家族連れの参加はみられなかった。2年間それぞれの学芸員が知恵をしぼって準備をしたが、今後は計画の見直しを図り、再検討を要する。

**(2) 学校との連携・融合**（調整：栗林勇太）

| 期　日 | 内容（館外の実施場所） | 対象校・学年など | 人数 | 指　導 |
|---|---|---|---|---|
| 4月8日 | 理科野外学習 地層見学会（八坂中～八坂地域の露頭） | 八坂中2年 | 6 | 矢野 |
| 5月9日 | 出張講座 ライチョウの域外保全ゼミ | 信州大学全学教育機構・ゼミ | 29 | 宮野 |
| 5月9日 | 出張講座 ライチョウの域外保全講義 | 信州大学全学教育機構・講義 | 97 | 栗林 |
| 5月29日 | 見学学習 | 東京コミュニケーションアート専門学校 | 21 | 清水 |
| 5月30日 | 理科野外学習 地層見学会（八坂中～八坂地域の露頭） | 八坂中2年 | 6 | 矢野 |
| 6月6・7日 | 職業体験学習 動物飼育 | 八坂中2年・3年 | 2 | 飼育員 |
| 6月14日 | 理科野外学習 自然観察会（親海湿原） | 大町岳陽高 | 80 | 千葉 |
| 6月18日 | キャンプ学習 青木湖の自然（青木湖キャンプ場） | 松川小5年 | 85 | 清水・千葉 |
| 6月20日 | キャンプ学習 青木湖の自然（青木湖キャンプ場） | 大町西小5年 | 50 | 千葉・栗林・関本 |

| 期　日 | 内容（館外の実施場所） | 対象校・学年など | 人数 | 指　導 |
|---|---|---|---|---|
| 6 月 20 日 | 理科野外学習 地層見学会（八坂中～八坂地域の露頭） | 八坂中 2 年 | 6 | 矢野 |
| 6 月 21 日 | 見学実習〈登山事前学習〉 | 大町岳陽高 1 年 | 240 | 栗林 |
| 7 月 3 日 | キャンプ学習 青木湖の自然（青木湖キャンプ場） | 大町南小 5 年 | 46 | 千葉・栗林 |
| 7 月 4 日 | キャンプ学習 青木湖の自然（青木湖キャンプ場） | 池田小 5 年 | 30 | 栗林・関本 |
| 7 月 8 日 | キャンプ学習 青木湖の自然（青木湖キャンプ場） | 大町北小 5 年 | 60 | 清水・栗林 |
| 7 月 9 日 | 学校との連携授業 市の様子 | 大町南小 3 年 | 44 | 関 |
| 7 月 12 日 | 登山事前学習〈展示説明〉 | 八坂中 2 年 | 13 | 千葉・関 |
| 7 月 17・18 日 | 職業体験学習 動物飼育 | 大町一中 2 年 | 2 | 飼育員 |
| 9 月 21 日 | 総合的な学習(博物館における観光案内) | 仁科台中 2 年 | 5 | 関 |
| 9 月 26 日 | 学校との連携授業 地質 | 八坂小 6 年 | 13 | 関・矢野 |
| 10 月 8・9 日 | 職業体験学習 動物飼育 | 仁科台中 2 年 | 2 | 飼育員 |
| 10 月 11 日 | 総合的な学習 地質解説等 | 美麻小 | 2 | 矢野 |
| 10 月 18 日 | 学校との連携授業 動物 | 大町南小 4 年 | 39 | 栗林・宮野 |
| 10 月 18 日 | 学校との連携授業 百瀬慎太郎 | 大町南小 4 年 | 39 | 関 |
| 10 月 25 日 | 総合的な学習（大町の自然について） | 大町一中 1 年 | 17 | 栗林 |
| 10 月 30 日 | 学校との連携授業 理科〈地質〉(旧大町スキー場) | 大町北小 6 年 | 54 | 矢野 |
| 11 月 7 日 | 見学実習 理科 | 白馬北小 4 年 | 59 | 栗林・宮野 |
| 11 月 7 日 | 見学実習 | 白馬北小 4 年 | 55 | 栗林・宮野 |
| 11 月 14 日 | 出張講座 ライチョウの域外保全 ゼミ | 信州大学全学教育機構 | 14 | 宮野 |
| 11 月 14 日 | 出張講座 ライチョウの域外保全 講義 | 信州大学全学教育機構 | 85 | 栗林 |
| 11 月 22 日 | 学校との連携授業 百瀬慎太郎 | 大町西小 4 年 | 27 | 関 |
| 11 月 22 日 | 学校との連携授業 動物 | 大町西小 4 年 | 27 | 栗林 |
| 11 月 22 日 | 学校との連携授業 地質（旧大町スキー場） | 大町東小 6 年 | 36 | 矢野 |
| 12 月 5 日 | 学校との連携授業 市の様子 | 大町北小 3 年 | 46 | 関 |
| 12 月 5 日 | 学校との連携授業 昔の道具 | 大町北小 3 年 | 46 | 関 |
| 12 月 24 日 | 出張講座 百瀬慎太郎 | 大町南小 4 年 1 組 | 20 | 関 |
| 12 月 25 日 | 学校との連携授業 動物 | 大町北小 4 年 | 40 | 栗林 |
| 2 月 26 日 | 学校との連携授業 百瀬慎太郎 | 大町南小 4 年 1 組 | 20 | 関 |
| 実施回数:37 回（延べ 40 日） | 学校数：16 校 | 人数合計：1,463 人（延べ 1,469 人） | | |

①「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）（調整：栗林勇太）

a. **実施日**：上記のとおり　※7～2 月の間に、市内 5 小学校により延べ 12 回実施

b. **場　所**：理　科：2 階「山と生きもの」「山の成り立ち」、付属園　ほか
社会科：1 階「山と人」、3 階「展望ラウンジ」

c. **参加者数**：市内小学生 延べ 451 人（内訳：3 年生 136 人、4 年生 212 人、6 年生 103 人）
※このほか各小学校教員先生方の引率あり

d. **概　要**：学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成 22 年度から 2 ヶ年、大町南小学校をモデル校に 4 年生

の理科授業（動物）を年 1 回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。それをふまえ、平成 24 年度から新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。平成 29 年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより、さらに実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざす。同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

**ア　連携授業 プログラム 1**　理科・4 学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」
（学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ）

**イ　連携授業 プログラム 2**　社会科・6 学年「土地（大地）のつくりと変化」
（学習素材：化石、北アルプスの地形・地質）

**ウ　連携授業 プログラム 3**　社会科・3 学年「わたしたちのまち みんなのまち ―市の様子―」
（学習素材：床面地図（空からマップ）、3 階からの展望（市街地周辺）など）

**エ　連携授業 プログラム 4**　社会科・3 学年「かわってきた人々のくらし ―古い道具と昔のくらし―」
（学習素材：山や雪にかかわる古い道具（民具）の展示）

**オ　連携授業 プログラム 5**　社会科・4 学年「きょう土を開く（きょう土に伝わる願い）」
（学習素材：地域の発展に尽くした先人・百瀬慎太郎）

**カ　連携授業 プログラム 6**　社会科・4 学年「わたしたちの県 ―県の広がり・特色のある地いきと人々のくらし―」
（学習素材：床面地図（空からマップ）、3 階からの展望（北アルプス後立山連峰周辺）など）

e. **所　見**：平成 22 年度から 2 年の試行期間を経て、24 年度から実施希望校を募って本格実施した事業である。26 年 3 月の展示改修によって、これまで実施してきた理科・社会科の連携授業により一層対応した展示内容となっており、それに沿った形での授業の流れやワークシートの編集といった点について、改善を加えて実施している。29 年度からは、各教科の各学習プログラムを追加作成し、大幅に増加。これにより、実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の一層の定着をめざした。

本年度、事業実施に際し、昨年度に引き続き市内小学校の理科担当教諭等が集まる市科学振興会理事会にて本事業の事前説明を行ったほか、市内校長会で説明依頼を行い、実施希望校の受け付けを行った。市内小学校全 5 校から希望があり、理科と社会科の授業を計 14 回実施し、延べ 451 人が参加した。各学校の授業進度状況や校外活動予定によって、実施へ向けた調整が難しい場合もあり、実施のかなわない学校があった。また、全ての学校で、実施回数が昨年と比べ同じもしくは減少した。

今後の改善点として、当館側の独善的な事業とならないように、事業実施後、児童の実際の反応を含めて内容を研鑽していくほか、担当教諭からの忌たんない感想や意見・要望を伺う機会を設けることが必要と考える。ただし、学校側に過度な負担を強いらない方法を検討しなければならない。

年度当初に事業説明のほか文書にて依頼を行ったものの、学校の実施時期が秋口に集中しており、担当教諭の失念などにより調整や説明を複数回にわたって行うことがあった。また、学校により昨年度実施されたプログラムが本年度実施されていないものも見られた。これは学校側の引継ぎや授業の進捗状況などに起因するのみでなく、学校全体に当事業が浸透しきれていないところにも要因があると考える。今後、実施回数の増加により当事業を浸透させていくためにも周知方法・周知の時期について検討していきたい。

**(3) 博物館実習の受入**（調整：栗林勇太）

| 期　日 | 実　習　者 | 人員 | 指　導 |
|---|---|---|---|
| 8 月 3 日（土）<br>～8 日（木）<br>※計 6 日間 | 日本大学 文理学部 史学科 4 年生<br>愛知大学 地域政策学部 地域政策学科 4 年生<br>東京情報大学 科目等履修生<br>日本大学 文理学部 地球科学科 4 年生<br>信州大学 理学部 理学科 4 年生<br>千葉大学 理学部 科目等履修生 | 6 人 | 鈴木・千葉・関・栗林・矢野 |

博物館法施行規則第 2 条（博物館実習）第 1 項の規定にもとづき、学芸員の有資格者となるために大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での博物館実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域

博物館の役割を体験的に学習していただいた。

当館での実習志望の理由は例年と同様であり、「山岳」をテーマにした博物館である当館での実習を希望したためで、全国的にもユニークなテーマの当館が実習先として学生に選ばれた結果である。また、学生が受け入れ先の博物館等を探すことは困難のようで、毎年受け入れ実績がある当館への学生のニーズは高いことがうかがえる。計画に基づき、一つの事業に限らず網羅的に博物館全体の業務を経験していただくことで、学芸員になるための単位取得のためだけではなく、博物館における多岐にわたる事業の理解と、地方における地域博物館の役割について深く理解していただけた。当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の 1 日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付したことで、指導担当職員と学生の両者で個々の実習日の概要について把握できたので効果的であった。

毎年、当館公式ウェブサイト担当学芸員によって、当館ウェブサイト上に実習生の感想を掲載している。サイトに掲載された過去の実習感想を読んで申し込みを行う学生が多く、今回の実習生も全員がこれらを読んでおり、実習館選定の判断材料のひとつとしていた。今年度も実習生に感想文を依頼し、サイトに掲載して広く周知・宣伝を行っている。

**(4) 学習会等への協力**（調整：関悟志）

| 期　日 | 内容（館外の実施場所） | 主　催 | 人数 | 指　導 |
|---|---|---|---|---|
| 5 月 16 日 | 公民館講座「やしろ史跡巡りウォーキング」（社地区） | 社公民館 | 11 | 清水 |
| 5 月 24 日 | 冒頭展示説明・雪形説明 | 朝日旅行 | 20 | 関 |
| 5 月 29 日 | 妙高はねうまカレッジ まなびの杜 妙高の自然学習講座〈妙高の生きもの ライチョウ〉（新潟県 妙高市勤労者研修センター） | 妙高市教育委員会生涯学習課 | 46 | 宮野 |
| 5 月 31 日 | 展示説明〈野尻湖ナウマンゾウ博物館氷河時代案内人研修〉 | 野尻湖ナウマンゾウ博物館 | 40 | 千葉 |
| 6 月 2 日 | 展示説明 | 愛知県建築組合連合会〈アワジ観光サービス〉 | 60 | 清水 |
| 6 月 5 日 | 展示説明〈山岳文化史、白馬村振興公社山小屋スタッフ研修〉 | 白馬村振興公社 | 8 | 関 |
| 6 月 6 日 | 展示説明〈千曲市社会福祉協議会育成・防犯研修〉 | 千曲市社会福祉協議会〈シリング観光〉 | 30 | 栗林 |
| 6 月 12 日 | 高山植物等保護対策協議会中信地区協議会総会講演〈ライチョウに関する講演会〉（中信森林管理署会議室） | 高山植物等保護対策協議会中信地区協議会（事務局：中信森林管理署） | 60 | 栗林 |
| 6 月 12 日 | 展示説明 | 須坂市小山町公民文化 | 40 | 宮野 |
| 6 月 15 日 | 冒頭展示説明 | 千葉大学・四川美術学院 | 23 | 清水 |
| 6 月 15 日 | 北アルプス国際芸術祭アーティスト向け見学会〈地形・地質〉 | まちづくり交流課 芸術文化振興係 | 35 | 矢野 |
| 7 月 7 日 | カクネ里氷河現地見学会（遠見尾根） | 大町病院を守る会 | 10 | 鈴木 |
| 7 月 7 日 | 冒頭展示説明・付属園ライチョウ説明 | 松代町牧内公民館 | 35 | 清水 |
| 7 月 9 日 | 冒頭展示説明 | 新組コミュニティー推進委員会 | 43 | 関本 |
| 7 月 10 日 | 冒頭展示説明 | 三越伊勢丹旅行 | 9 | 清水 |
| 7 月 15 日 | 展示説明 | 高岡トラベルサービス | 14 | 関本 |
| 7 月 15 日 | 展示説明 | 松本市巾上南町会 | 20 | 宮野 |
| 7 月 21 日 | 展示説明・座学「近代登山と松濤明」 | 慶應義塾大学ワンダーフォーゲル部三田会 | 18 | 関 |
| 7 月 21 日 | 冒頭展示説明 | クラブツーリズム | 22 | 関 |
| 7 月 25 日 | ライチョウ舎説明〈県地域振興局と大町市の懇談会視察〉 | 長野県地域振興局・大町市 | 8 | 清水 |

| 期　日 | 内容（館外の実施場所） | 主　催 | 人数 | 指　導 |
|---|---|---|---|---|
| 7月25日 | 冒頭展示説明 | 大阪朝日旅行 | 16 | 関本 |
| 7月27日 | 展示説明〈FM長野「Oasis79.7 オトナの探訪」ツアー〉 | 大町温泉郷観光協会 | 40 | 矢野・宮野 |
| 8月3日 | 地域の歴史と自然「北アルプスの地形・地質について」(安曇野市明科子どもと大人の交流学習施設「ひまわり」) | 安曇野市明科図書館 | 30 | 矢野 |
| 8月6日 | 学童夏休みおたのしみ教室〈昆虫について〉(大町市児童センター) | 大町市児童センター | 25 | 栗林 |
| 8月8日 | 冒頭展示説明 | 朝日旅行 | 10 | 宮野 |
| 8月19日 | 育てる会「夏の自然体験活動」自然観察班〈地層見学・化石採集〉(小川村立屋) | 育てる会八坂美麻学園 | 18 | 矢野 |
| 8月20日 | 展示説明〈育てる会「夏の自然体験活動」自然観察班〉 | 育てる会八坂美麻学園 | 22 | 関 |
| 8月22日 | 冒頭展示説明 | 豊石会 | 31 | 千葉 |
| 8月23日 | 冒頭展示説明 | 立川市地域文化振興財団 | 40 | 関 |
| 8月23日 | 展示説明〈信州大学医学部学生視察〉 | 大町病院 | 20 | 清水 |
| 8月31日 | 冒頭展示説明 | クラブツーリズム | 18 | 千葉 |
| 9月14日 | 冒頭展示説明 | クラブツーリズム | 20 | 栗林 |
| 9月18日 | 展示説明〈黒部ダムをもっと知る旅〉 | 道新旅行 | 17 | 関 |
| 9月19日 | 展示説明〈台湾旅行会社視察〉 | 北アルプス日本海広域連携会議〈大町市観光協会〉 | 9 | 清水 |
| 9月21日 | 冒頭展示説明 | クラブツーリズム | 14 | 関本 |
| 9月25日 | 展示説明 | 野外保育風の森 | 19 | 関 |
| 9月28日 | 冒頭展示説明 | クラブツーリズム | 18 | 関 |
| 10月3日 | 親子教室「すくすく広場」〈本館・付属園見学等〉 | 大町公民館 | 40 | ― |
| 10月5日 | 塩の道ちょうじや文化講座「ライチョウの不思議あれこれ」(塩の道ちょうじや) | 塩の道ちょうじや | 15 | 宮野 |
| 10月19日 | 塩の道ちょうじや文化講座「大町山岳博物館の化石に学ぶ私たちの生い立ち」(塩の道ちょうじや) | 塩の道ちょうじや | 25 | 矢野 |
| 10月21日 | 講座「小松屋の夕べ 山の話と播隆さん」(中山道太田宿旅籠旧小松屋〈岐阜県美濃加茂市〉) | 太田宿草鞋の会・ネットワーク播隆 | 40 | 関 |
| 11月2日 | 展示説明・鷹狩山登山引率説明(鷹狩山) | まちづくり交流課定住促進係 | 20 | 清水 |
| 11月30日 | 塩の道ちょうじや文化講座「北アルプスの山小屋」(塩の道ちょうじや) | 塩の道ちょうじや | 20 | 清水 |
| 12月17日 | 冒頭展示説明 | 名鉄観光バス | 64 | 千葉 |
| | | | | |
| 12月26日 | 展示説明〈地質・北アルプス国際芸術祭参加アーティスト視察見学〉 | まちづくり交流課 芸術文化振興係 | 1 | 矢野 |
| 1月18日 | 北アルプス国際芸術祭ボランティア向け講習会〈地形・地質〉(大町市役所東大会議室) | まちづくり交流課 芸術文化振興係 | 40 | 矢野 |
| 1月22日 | ライチョウの飼育研修 | いしかわ動物園 | 2 | 宮野・栗林 |
| 1月25日 | ゆきんこの観察会 | 大町山岳博物館友の会 | 13 | 鈴木 |
| 2月2日 | 冒頭展示説明 | 斎藤ホテル | 23 | 清水 |
| 2月5日 | 冒頭展示説明 | 斎藤ホテル | 30 | 千葉 |
| 2月8日 | 冒頭展示説明 | 斎藤ホテル | 29 | 関本 |
| 2月11日 | 冒頭展示説明 | 斎藤ホテル | 28 | 関 |

| 期　日 | 内容（館外の実施場所） | 主　催 | 人数 | 指　導 |
|---|---|---|---|---|
| 2 月 17 日 | ライチョウサポーターズスキルアップ講習会（塩尻総合文化センター） | 長野県自然保護課 | 50 | 宮野 |
| 2 月 19 日 | 冒頭展示説明 | 斎藤ホテル | 26 | 清水 |
| 2 月 22 日 | 冒頭展示説明 | 斎藤ホテル | 25 | 栗林 |
| 2 月 26 日 | 冒頭展示説明 | 斎藤ホテル | 11 | 清水 |
| 2 月 29 日 | 冒頭展示説明 | 斎藤ホテル | 9 | 清水 |
| 実施回数：57 回（延べ 57 日） | | 件数：40 団体 | 人数合計：1,430 人 | |

前記以外に、下記の各種事業に協力した。

**①第 18 回 北アルプス雪形まつり**（担当：清水隆寿）

第 18 回北アルプス雪形まつり開催に伴い、山岳博物館から実行委員が委嘱され、雪形ウォッチング部門の担当として雪形ウォッチングの企画・準備・実施、ならびに雪形写真展を開催した。

なお、同雪形まつりの主要行事である雪形ステージは、令和元年 6 月 8 日（土）午後 1 時から 3 時 30 分まで大町市文化会館で実施された。参加総数は約 350 人。

a. **会　期**：〔雪形写真展〕令和元年 5 月 31 日(金)～6 月 8 日(日)　※延べ 9 日間

b. **会　場**：ギャラリー・い～ずら（い～ずら大町特産館 2 階展示場）

c. **見学者数**：45 人

d. **概　要**：展示場「ギャラリー・い～ずら」で、雪形写真パネルの展示（約 45 点）と雪形ビデオ上映をし、「雪形写真展」を実施して解説を行った。

e. **関連事業**

・「雪形ウォッチング」は、5 月 13 日（日）、5 月 26 日（日）の 2 日間を計画したが、26 日については応募者が少なかったため中止とした。見学地は、北は小谷村から南は安曇野市豊科地区にかけてマイクロバスを利用して巡り、雪形見学会を開催した。講師は渡辺逸雄氏、宮澤洋介氏のほか博物館職員の清水が行なった。13 日の参加者は合計 9 人であった。

・今年度は「ギャラリー・い～ずら」での雪形写真の展示のほか、大町温泉郷の各ホテルに呼び掛け、雪形を紹介するパネルの設置を行なった。応募のあった 5 つのホテルへは各 17 枚の雪形のパネルを設置し、ゴールデンウィークを挟む約 1 ヶ月間展示をした。各ホテルとも宿泊者が目に触れる機会の多い場所にパネルを設置いただき、期間中 1 万人程の観光客の方々にご覧いただく機会となった。

**②第 9 回 信州・大町 山の子村キャンプ 〔福島の子ども保養プログラム〕**（調整：清水隆寿）

本年度も福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能の汚染被害を受けている子ども達に、心身の保養をしていただく環境を大町に整えて過ごすことを目的とした信州・大町 山の子村キャンプ実行委員会に共催として加わり、プログラムのサポートや資材等の支援を博物館として行った。

a. **主　催**：信州・大町 山の子キャンプ実行委員会（実行委員長 荒山雄大氏）
　**共　催**：大町市教育委員会（主管：市立大町山岳博物館）
　**後　援**：大町市、小形和夫氏、長野県労働金庫大町支店、北アルプス医療センターあづみ病院 ほか

b. **会　期**：令和元年 8 月 15 日(木)～8 月 21 日(水)〔6 泊 7 日間〕

c. **会　場**：山の子村キャンプ場、市立大町山岳博物館 ほか

d. **参加者**：福島の小学生 21 人、市内の小学生ほかボランティアの皆さん約 80 人

e. **概　要**：期間中、山岳博物館見学のほか、ロープで木登り体験、軽登山、クラフト、木崎湖でのカヌー体験、温泉、やまびこ祭り参加など様々なプログラムに基づき実施した。親元を離れ団体生活をし、楽しみながら体験することを主眼としたプログラムとして開催した。

f. **所　見**：本年度で第 9 回目となる信州・大町　山の子キャンプが、大町東山の旧山の子村キャンプ場を拠点に開催された。開催にあたり関わったボランティアスタッフは 80 人におよび、寄附等の善意として 100 以上の会社・団体・個人に支えられて実施された。事故もなく成功裡に終了することができ、参加した福島の子どもたちに、大町での多くの自然体験や思い出を作ってもらうことができ、所期の目的を達成することができた。

③信濃大町 山フェス 2019（担当：関悟志）

a. 期　日：令和元年 9 月 28 日（土）

b. 会　場：大町公園・長野県山岳総合センター・山岳博物館一帯

c. 参加者数：約 700 人

d. 概　要：「信濃大町 山フェス（山岳フェスティバル）」（主催：同実行委員会）は、昨年の長野県「信州山の日」制定をきっかけに平成 26 年度から開催されている。県民共通の財産であり、貴重な資源である「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくとする「信州山の日」の趣旨にもとづき、本年度も開催された。山岳博物館では、昨年同様、実行委員会の構成員となり、イベントの準備・運営に協力した。山岳博物館ではイベント当日、下記内容のイベントを実施した。

ア　無料開放

終日、どなたでも博物館へ無料で入館いただいた。（入館者数：275 人）

イ　スポットガイドツアー

博物館のスタッフが館内や付属施設を案内しながら、各展示コーナーの解説を行った。1 日 7 回実施。時間はいずれも 20 分程度。（延べ参加者数：57 人）

ウ　さんぱくワークショップ ―折り紙でライチョウとカモシカを作ろう！―

今回初めて実施した催し。博物館で飼育展示しているライチョウとカモシカを折り紙で作りながら、その特徴を楽しく学んでいただいた（終日実施）。（延べ参加者数：40 人）

エ　さんぱくクイズラリー

博物館の展示フロアのチェックポイントをまわりながら、クイズに挑戦していただき、北アルプスの自然や歴史について、たのしく学んでいただいた。（参加者数：164 人）

オ　どうぶつスタンプラリー

付属園の飼育動物を観察しながら、園内に設置してある台紙に動物飼育員手作りのオリジナルスタンプを押し、たのしんでいただいた。スタンプが全て集まった方には、特典の特大スタンプを押して完成とした。（参加者数：66 人）

e. 所　見：当日、曇天のなか終了間際に小雨となり出したが、昨年を上回る参加者があった。当館については、例年同様、当日の無料入館や各種イベントを通じて、普段の来館者層とは異なる幅広い方々にも新たにお出でいただけ、博物館の展示や活動内容を広く知っていただく良い機会となった。山フェス（山岳フェスティバル）は「信州山の日」や国民の祝日「山の日」制定の趣旨にもとづき平成 26 年度から行われているもので、今回 4 回目の開催となった（平成 30 年度は未実施）。この催しは、観光課の主管ではあるが、山岳博物館の使命にも大きく関わる。今後も継続開催していく予定とのことなので、同実行委員会を通して、引き続き協力して事業実施に取り組みたい。

(5) 博物館資料の特別利用（調整：関悟志）

①館内利用　18 件（このほか、山岳図書資料の館内利用 45 件）

②館外利用　53 件　※内訳は下記のとおり（このほか、山岳図書資料の館外利用 12 件、長期貸出による館外利用 4 件）

| 期　間 | 目　的 | 利用者 | 利用資料・点数 |
|---|---|---|---|
| 4 月 15 日～5 月 15 日 | 雑誌掲載 | ㈱枻出版社　PEAKS 編集部 | 登山靴等が写る登山者等のイメージ写真データ 2 点 |
| 4 月 15 日～6 月 15 日 | 調査研究 | 富山県[立山博物館] | 湯浅巖ナンダ・コート関係ネガ帖 3 点 |
| 4 月 19 日～5 月 10 日 | 学校登山事前学習 | 仁科台中学校 | 山岳紹介等の DVD3 点 |
| 4 月中旬～5 月中旬 | ウェブサイト掲載 | フリーランスライター（.HYAKKEI） | 常設展示、付属園、ミュージアムカフェ・ショップ |
| 5 月 13 日～10 月 26 日 | JR 東海パンフレット掲載 | ㈱弘春堂 | 飼育ライチョウの写真データ 1 点 |
| 5 月 15 日～ | 雑誌掲載 | ㈱ネイチュアエンタープライズ 岳人編集部 | 石川欣一関係写真データ 2 点 |
| 5 月 23 日～9 月中旬 | JR 東海ポスター掲載 | 大町市プロモーション委員会 | 飼育ライチョウの写真データ 4 点 |

| 期　間 | 目　的 | 利用者 | 利用資料・点数 |
|---|---|---|---|
| 5月～7月 | チラシ掲載 | 一般社団法人縁家 塩の道ちょうじや | カクネ里氷河の写真データ1点 |
| 5月 | 書籍掲載 | 大町民話の里づくり もんぺの会 | 松濤明の手帳、カクネ里氷河写真データ 計2点 |
| 5月～ | ロビー掲出 | 日本郵便㈱ 大町郵便局 | 飼育ライチョウの写真データ4点 |
| 5月～ | 書籍掲載 | 個人 | 飼育動物の写真データ290枚（候補含む） |
| 6月1日～ | ウェブサイト掲載 | ㈱ネットワールド | 館内観写真データ1点 |
| 6月～9月 | パンフレット掲載 | 大町市プロモーション委員会 | 飼育ライチョウの写真データ4点 |
| 6月～ | 雑誌掲載 | ㈱山と溪谷社 山と溪谷編集部 | 館外観・内観写真データ2点 |
| 7月1日～10月30日 | 企画展示 | 富山県 立山カルデラ砂防博物館 | ヤマネ剥製1点 |
| 7月4日～9月2日 | 企画展示 | 環境省 上高地管理官事務所 | ニホンザル剥製1点 |
| 7月6日～ | 観光案内（ホテル内展示） | 白馬ハイランドホテル | 常設展示のライチョウはく製一式ほか |
| 7月10日 | TV番組放送 | ㈱テレビ信州 報道制作局報道部 | 飼育ライチョウの卵の写真データ2点 |
| 7月13日～9月1日 | 企画展示 | 富山県[立山博物館] | ライチョウ剥製等12点 |
| 7月20日～8月19日 | 雑誌掲載 | ㈱まちなかカントリープレス KURA編集部 | 館外観写真データ1点 |
| 8月6日 | 新聞取材 | 中日新聞 大町通信局 | 中部山岳鳩協会関係資料一式 |
| 8月7日 | 情報収集 | 個人 | カモシカ関係の図書資料1点 |
| 8月8～27日 | 企画展示 | 大町市教育員会 生涯学習課 | 尾竹正躬関係の美術資料24点 |
| 8月22日～10月31日 | 調査研究 | 信州大学振動調査グループ | 岩石標本2点 |
| 8月28日～ | ロビー展示 | 日本郵便㈱ 大町郵便局 | ライチョウの写真データ4点 |
| 8月31日～ | ウェブサイト掲載 | ローカライズプロダクション | 常設展示 |
| 8月～ | ウェブサイト掲載 | ㈱スノーナビ | 常設展示 |
| 9月5日～ | CATV番組放送 | 合同会社GREEN | 常設展示等 |
| 9月8日～ | ウェブサイト掲載 | 個人 | トキ剥製標本 |
| 10月7日 | TV番組放送 | TBSテレビ | 野口五郎岳の写真データ1点 |
| 10月8日～ | 雑誌掲載 | ㈱アッシュ | 山岳画関係の写真データ4点 |
| 10月9日～11月8日 | 参考資料 | 大町市まちづくり交流課芸術文化振興係 | DVD「北アルプスの成り立ち」1点 |
| 10月31日～11月22日 | 新聞取材 | 美術ジャーナリスト個人（信濃毎日新聞連載執筆者） | 美術資料画像データ1点 |
| 10月上旬～ | ウェブサイト掲載 | ㈱ヤマップ | 館外観・内観（常設展示風景等） |
| 11月7～22日 | 理科授業 | 大町東小学校6学年 | 岩石標本3点 |
| 11月14日 | ウェブサイト掲載 | ㈱星野リゾート | 館外観・内観（常設展示風景等） |
| 11月下旬 | 新聞掲載 | 朝日新聞長野総局 | 大沢小屋再現模型（常設展示資料） |
| 12月5～27日 | 参考資料 | 大町市まちづくり交流課芸術文化振興係 | DVD「北アルプスと人とのかかわり」等2点 |
| 12月17日～1月26日 | TV番組制作企画参考 | 制作会社クロスブリード | 中部山岳鳩協会関係参考資料PDFデータ一式 |

| 期　間 | 目　的 | 利用者 | 利用資料・点数 |
|---|---|---|---|
| 12 月 | 書籍掲載 | 個人 | 針ノ木新道の高札 1 点(写真) |
| 1 月 15 日 | 雑誌掲載 | ㈱ネイチュアエンタープライズ | 加賀正太郎関係写真データ 2 点 |
| 1 月 30 日～3 月 31 日 | 教科書掲載 | 一般社団法人信州教育出版社 | カモシカの写真データ一式 |
| 1 月 | 新聞掲載 | 大糸タイムス | ライチョウの写真データ一式 |
| 1～8 月 | カタログ掲載 | ミレー・マウンテン・グループ・ジャパン㈱ | 外観・内観（常設展示及び山岳図書資料館） |
| 3 月 4～10 日 | CATV 番組放送 | 合同会社 GREEN | ライチョウの写真データ 6 点 |
| 3 月 14 日～ | 雑誌掲載 | ㈱山と溪谷社 | 大下藤次郎絵画作品画像データ 1 点 |
| 3 月 15 日～4 月 14 日 | 雑誌掲載 | ㈱山と溪谷社 | ライチョウ盲腸糞の写真データ 1 点 |
| 3 月 20 日 | TV 番組放送 | SBC 信越放送 | 館内、付属園風景 |
| 3 月 20 日～5 月 31 日 | 広報誌掲載 | やませみ舎（発行先：㈱ミヤマ） | 外観・内観（常設展示及び山岳図書資料館） |
| 3 月末～ | DVD 収録 | 常念口登山案内人組合(DVD 作成：信州映像舎) | 小林喜作関係写真データ計 2 点 |
| 4 月 10 日～5 月 14 日予定 | 雑誌掲載 | ㈱山と溪谷社 | ライチョウ等の写真データ 4 点 |
| 8 月 31 日予定 | 放送コンテスト応募作品取材 | 大町岳陽高等学校放送部 | ライチョウの写真データ等 4 点 |
| 令和 2 年中予定 | 記念誌掲載 | 針葉樹会（一橋大学山岳部 OB 会） | 小谷部全助旧蔵アルバム 4 点 |

**③長期貸出**　4 件

| 期　間 | 目　的 | 利用者 | 利用資料・点数 |
|---|---|---|---|
| 昭和 55 年 7 月 21 日～ | 常設展示 | 京都市動物園 | カモシカ骨格標本 2 点 |
| 昭和 56 年 7 月 1 日～ | 教育普及 | 新潟県 | ライチョウ剥製 2 点 |
| 平成 18 年 11 月 15 日～ | 常設展示 | 富山市科学博物館 | ライチョウ剥製 1 点 |
| 平成 28 年 4 月 28 日～ | 常設展示 | 長谷川恒男記念庫 | 長谷川恒男使用登山靴 1 点 |

※これらのほか、社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。

**(6) 山岳図書資料館の利用**（担当：関悟志）

| 開館日数 | 利用者数※ | | | 資料閲覧 | 資料貸出 | | 利用時間 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 市内 | 県内 | 県外 | 件数 | 件数 | 点数 | |
| 317 日 | 5 人 | 13 人 | 27 人 | 45 件 | 12 件 | 19 点 | 計 21 時間 |
| | 計 45 人 | | | 計 57 件 | | | |

※資料閲覧と資料貸出との同時利用者を含む

## 3　執筆・出版

**(1) 出版**

**①出版物**

**a. 広報誌『山と博物館』**（担当：関本景香）

本誌は、当館創立 5 年後の昭和 31 年 2 月 20 日「やまと博物館」として第 1 号を創刊。当初は当館後援会発行による有料による月刊の発行物として、旬の話題や保護動物の紹介、博物館の出来事などの記事を掲載していた。その後、「山と博物館」に改称。当館発行の月刊機関誌として位置付けられるようになり、各分野の専門家や職員等による学術色の濃い読み物的な内容の文章を掲載するようになる。時代を経るにつれ、前述のような内容の紹介に誌面を多く割くようになったが、平成 26

年 3 月の展示改修によるリニューアルオープンを機に、創刊当初に立ち返り、博物館の動きや北アルプスの話題などをより分かりやすく、より広くお伝しようと考え、本誌の編集方針を大幅に見直して誌面を刷新。第 59 巻第 3 号・2014 年 4 月号から、無料の広報誌として位置づけて発行することとした。これは平成 27 年度の『研究紀要』創刊を見越して学術的な文書の掲載はそちらに譲り、速報的なお知らせ等は平成 26 年 3 月の展示改修を機にサイトをリニューアルした公式ホームページを最大限に活用するといった広報・宣伝を含め、館全体の情報発信体制を見直す中でのことであった。平成 30 年度からは、これまでの月刊から季刊に変更、夏・秋・冬・春の年 4 回とし第 63 巻第 4 号・2018 夏号から第 64 巻第 1 号・2019 春号を発行した。これは、大町市が山岳文化都市宣言のまちであることから、市民の皆様に当館をより身近に感じていただけるように、毎号の誌面を増やして今まで以上に内容を充実し、市内全戸の皆様方に配布することとしたことによる。

本年度は、第 64 巻第 2 号・2019 夏号（発行日：令和元年 6 月 25 日）、同第 3 号・2019 秋号（発行日：令和元年 9 月 25 日）発行、同第 4 号・2019 冬号（発行日：令和元年 12 月 25 日）、第 65 巻第 1 号・2020 春（発行日：令和元年 3 月 25 日）を編集・発行した。

各号の発行部数：10,500 部、体裁：A4 判、8 頁、カラー刷り。毎号、『広報おおまち』とともに組み込み文書として市内全戸へ配布し、市内の小中学校や社会教育施設・文化施設等へ配布・設置したほか、県内外の関係者や関係機関等への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

**b.『年報』**（担当：関悟志）

『市立大町山岳博物館 平成 30 年度 年報』（発行日：令和元年 8 月 31 日、発行部数：200 部、体裁：A4 判、50 頁、単色刷り）を編集・発行し、関係機関への配布を行った。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

**c.『研究紀要』**（担当：関悟志）

当館では、調査研究事業の一層の充実を図ることで、学術的な成果情報を資料収集保管事業や教育普及事業へ展開するという博物館活動の良好な循環体制の構築を進めるため、北アルプスと周辺地域の自然科学、人文・社会科学諸分野の調査研究に関する学術的な成果情報を収録する『研究紀要』を平成 27 年度に創刊した。

本年度、『市立大町山岳博物館研究紀要 第 5 号【ライチョウ特集号】』（発行日：令和 2 年 3 月 31 日、発行部数：本誌 500 部・各抜刷計 500 部、本誌体裁：A4 判・カラー、124 頁）を編集・発行し、関係者や関係機関等へ配布した。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

**②販売中の出版物**（調整：清水隆寿）

現在販売中の当館編による出版物は以下の通り。　※完売のもの除く（令和 2 年 3 月 31 日現在）

| 書　　名 | 発 行 先 | 発行年 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| H27 年度 企画展　北アルプス山麓の自然に蝶が舞う | 市立大町山岳博物館 | 平成 28 年 | 館内にて販売中 |
| 常設展　山と人 北アルプスと人とのかかわり | 〃 | 平成 25 年 | 〃 |
| 北アルプス登山史資料 2 ―白馬岳周辺登山史― | 〃 | 平成 24 年 | 〃 |
| H24 年度 企画展　大地はなぞだらけ | 〃 | 平成 24 年 | 〃 |
| 山と博物館　(H26.2 発行の第 59 巻第 2 号までのバックナンバーを館内販売中) | 〃 | 毎月 25 日 | H26.3 発行の第 59 巻第 3 号からは無料配布 |

## 4　広報・宣伝（調整：栗林勇太・関本景香）

博物館の施設利用案内や各種催し案内、博物館の活動紹介や魅力紹介を広く周知することで、より多くの方々に博物館を知っていただき、興味・関心を持っていただいて博物館を利用していただくため、公式ウェブサイトを管理（更新・充実）し、翌年度の年間行事予定のチラシを印刷・配布した。

公式ウェブサイト管理や年間行事チラシ印刷・配布を通し、博物館の認知度・関心度を高め、利用者増を図りたい。これにより、市民や地域住民、登山者や観光旅行者等のだれもが、いつでも、どこでも気軽に利用していただける場所として広く親しまれる博物館づくりにつなげ、地域における博物館の存在価値を一層高めていきたい。

ただし、広報・宣伝における効果的な情報発信の内容や手法等については今後検討し、常時見直していく必要がある。博物館全体の広報・宣伝（情報提供）体制を再確認し、より効果的な体制を構築することが急務。そのためにも、将来をみすえた博物館マネジメントを戦略的に進めることが重要。そのために、まずは現状を把握するため、観光施設としての面に重点を置いた市場調査の実施を検討することも一案と考える。

**(1) 公式ウェブサイト管理**（担当：栗林勇太）

インターネット媒体として、公式ウェブサイト上の掲載情報について企画展等の開催等にあわせて随時更新を行った。　URL：https://www.omachi-sanpaku.com

なお、公式ウェブサイト以外にも、大町市や安曇野アートラインの公式ウェブサイトにおいて、各担当が必要に応じて情報発信を随時行った。また、本年はSSL（暗号化通信）に対応するサーバーに切り替えを行った。

より分かりやすいホームページにしていくために、次年度は、ホームページの構成などについて検討を行う。

**(2) SNSを用いた情報発信**（担当：栗林勇太）

近年SNSを用いた情報発信が企業などでも行われており、大町市でも文化会館や市民活動サポートセンターで運用が始まった。そこで情報発信の一手段としてFacebookページの運用について協議し、本年度から運用を開始した。

主にイベントについて発信し、延べ約6,000人の閲覧者があった。発信頻度や内容について次年度は検討を行う。

**(3) 年間行事チラシ印刷・配布**（担当：関本景香）

紙媒体として、博物館における翌年度の年間行事予定の情報等を掲載するチラシを印刷（15,000部、A4判ヨコ両面カラー3折）した。また、当該年度に入り、前年度に印刷した年間行事チラシを大北管内の小中学校の全児童生徒を含め、県内外の関係各所に配布した。

なお、各催しの個別情報については、各担当から大町市の広報誌「広報おおまち」や子ども・親子向け情報誌「がったつうしん」（大町市子どもセンター編集・発行）によって市民や近隣地域住民向け、「情報提供書」によって市内・県内の各報道機関向けに情報発信を行ったほか、県内や全国の博物館関係誌や山岳関係誌等への情報発信を行うなどした。

**(4) 観光施設としての各種照会等の対応**（担当：関本景香）

旅行案内雑誌等の観光施設を主とした記事掲載に関わる照会等について、情報提供や記事校正等の対応を随時行った。

## 5　大町博物館連絡会（担当：鈴木啓助・関本景香）

大町博物館連絡会は加盟館 10 館で構成。例年、会長は大町エネルギー博物館長、事務所（事務局）は当館が担っている。

当館では同連絡会加盟館（理事：館長、幹事〈事務局員〉：学芸員）として理事会及び総会を準備・運営するとともに出席し、各種事業の企画立案・準備・実施に携わった。主な事業として、加盟館 10 館から会費、加盟外の 1 施設と日帰り温泉施設 10 施設から掲載協力金、大町市観光協会から印刷負担金を収納して「おおまち博物館めぐり案内図」4 万 3 千部を印刷作成。近隣のホテル・旅館・観光案内所等に配布したほか、大町市観光課・観光協会を通じて県外での観光PRイベントや旅行業者・旅行業代理店業者向けの商談会などに提供し、誘客を図った。また、5 年目となった「おおまち博物館めぐりスタンプラリー」を 4 月 1 日から 11 月 30 日まで実施。この取り組みは、各館への周遊誘客につなげることで大町市を“博物館のまち”として周知する方策として一定の成果があり、さらにスタンプラリー参加者からも一定の評価を得ており今後も継続していく方針である。

本年度は、各館の状況や課題を共有し情報交換を行うことによって、当会の事業をより活発化させることを目的とし、令和 2 年 1 月に意見交換会を開催した。今後も各館の意見を参考に効果的な周遊誘客の体制を検討していきたい。

## 6　安曇野アートライン推進協議会 美術館･博物館部会(担当:鈴木啓助･関本景香)

安曇野アートライン推進協議会は安曇野周辺の美術館・博物館等 19 館で構成。本年度、会長は松川村長、事務局は松川村教育委員会が担い（任期 2 年の 2 年目）、同協議会の実働を担う美術館・博物館部会の代表館は安曇野アートヒルズミュージアムが務めた（任期 1 年）。

当館では同協議会加盟館（幹事：館長、部会担当：学芸員）として幹事会及び総会、部会会議（年間 6 回）に出席し、「第 18 回 安曇野アートラインサマースクール」や別記「第 15 回 安曇野アートライン展」(P7 参照)の各催しに参画した。また、アートラインマップやサマースクールチラシの編集発行・配布にかかわる事務作業を行ったり、所属する広報部会でアートライン公式ホームページの全面改修事業に携わったりしたほか、学芸担当研修会へ参加した。

## 7　大町山岳博物館友の会（担当：清水隆寿・千葉悟志）

大町山岳博物館友の会は、会員の知識の向上をはかるとともに、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

**(1) 組織**

**①役員**

a. **会　長**　宮澤洋介
b. **副会長**　丸山優子
c. **運営部**　部長：川﨑 晃　副部長：宮田京子
　　部員：川﨑祐子、丸山卓哉（編集担当）、仙波美代子、若林みどり、西田 均、有川美保子
d. **事務局**　鈴木啓助、清水隆寿、千葉悟志（主務）、関 悟志、栗林勇人、関本景香
e. **監　査**　越山頼子、瀬戸口三栄子
f. **顧　問**　千葉彬司（令和元年 9 月 17 日逝去）、長沢正彦

**②構成**（令和 2 年 3 月 31 日 現在）

| 会員種別 | 会員数 | 会員種別 | 会員数 | 会員種別 | 会員数 |
|---|---|---|---|---|---|
| ファミリー会員 | 53 家族（193 人） | 個人会員 | 67 人 | 学生会員 | ― |
| 賛助会員 | 2 者（1 団体･1 人） | 終身会員 | 2 人 | 名誉会員 | 2 人 |
| 合 計 | 266 人 | | | | |

**(2) 運営部**

**①運営部会**　全 9 回開催（会場：山岳博物館 宿直室）

**②行事**

| 実施日 | 参加者 | 行事名・実施場所など |
|---|---|---|
| 平成 31 年 4 月 21 日（日） | 参加者数 22 名 | 大町山岳博物館友の会総会<br>於：大町山岳博物館 講堂 |
| 令和元年 6 月 9 日（日） | 募集人員 20 名<br>参加者数 14 名<br>参加率 70% | 針ノ木岳自然観察会<br>見学地：針ノ木岳登山道<br>講師：腰原正己氏・有川美保子氏 |
| 令和元年 9 月 29 日（土） | 募集人員 20 名<br>参加者数 18 名<br>参加率 90% | 塩の道を歩く「粟峠～鳥越峠周遊コース」<br>見学地：長者平～横川～殿行～粟峠～戸土～鳥越峠～長者平に戻る）<br>講師：澤渡勇治氏 |
| 令和 2 年 1 月 25 日（土） | 募集人員 20 名<br>参加者数 13 名<br>参加率 65% | ゆきんこの観察会<br>場所：大町山岳博物館 講堂<br>講師：鈴木啓助氏 |

※参加者人数には、講師・スタッフを含む。

③協力

| 実施日 | 協力内容 | 行事名など |
|---|---|---|
| 令和元年5月3日（金）<br>・4日（土） | 講師派遣（花めぐり紀行より3名） | 居谷里湿原自然観察会<br>（主催：大町市文化財センター） |
| 令和元年6月2日（日） | 講師派遣（花めぐり紀行より2名） | 針ノ木慎太郎祭自然観察班<br>（主催：針ノ木慎太郎祭実行委員会） |
| 令和元年8月15日(木)<br>～21日(水) | 備品貸出（ガスコンロ） | 山の子村キャンプ<br>（主催：「信州･大町山の子村」「福島のこどもたち保養キャンプ」実行委員会） |

(3) 広報・宣伝

①会報「ゆきつばき通信」

| 号数 | 発行日 | 主な内容 |
|---|---|---|
| 179号 | 平成31年4月28日（日） | **（行事案内）**針ノ木自然観察会<br>**（報告）**ライチョウ公開記念講演会「ライチョウを守る ―ここまでわかったライチョウの生活」、平成31年度山博友の会総会・記念講演会、烏帽子の会・花めぐり紀行・花めぐり紀行・ボランティアの会<br>**（サークル研修案内）**白山高山植物園～ふれあい昆虫館 |
| 180号 | 令和元年7月21日（日） | **（行事案内）**塩の道を歩く「粟峠～鳥越峠周遊コース」、企画展「北アルプスの山小屋、特別講演会「建築からみた北アルプスの山小屋地見学会「上高地徳本峠小屋ほか現地見学会」、さんぱくこども夏期だいがく 親子化石教室「信州が海だった頃」、「みんなで温暖化ウオッチ セミのぬけがらを探せ！」<br>**（報告）**針ノ木雪渓自然観察会、総会記念講演会「チベット･シュエラプカンリ初登頂と高所登山」、サークル合同研修会･烏帽子の会 |
| 181号 | 令和元年12月21日（土） | **（行事案内）**ゆきんこの観察会、常設展スペシャルガイド<br>**（投稿）**針ノ木雪渓自然観察会に参加して、塩の道を歩く「粟峠から鳥越峠周遊」<br>**（報告）**特別講演会「建築からみた北アルプスの山小屋」、北アルプスの山小屋現地見学登山「上高地徳本峠小屋ほか現地見学会」、塩の道を歩く「粟峠～鳥越峠周遊コース」、サークル合同研修会 白山高山植物園～ふれあい昆虫館、烏帽子の会・ボランティアの会 |
| 182号 | 令和2年2月24日（日） | **（行事案内）**総会記念講演会「信濃大町「岳野湖山」にかける夢」、友の会総会、探鳥会 in 大峰、「ライチョウ飼育の現場では今」<br>**（報告）**ゆきんこの観察会、烏帽子の会・ボランティアの会 |

(4) サークル活動

①烏帽子の会： サークル会員27名（令和2年3月31日 現在）

| 活　動　日 | 内　容 | 参加者 |
|---|---|---|
| 令和元年 5月26日（日） | 猿ヶ城跡（大町市）―総会― | 13人 |
| 【中止】令和元年7月27･28日（土･日） | 蝶ヶ岳（大町市） | ― |
| 【中止】令和元年9月22日（日） | 御嶽山（木曽町） | ― |
| 令和元年11月2日（土） | 鷹狩山縦走（大町市） | 13人 |
| 令和2年1月18日（土） | 傘山（飯島町） | 11人 |
| 【中止】令和2年3月28日（土） | 雨飾高原～鎌池 | ― |

②ボランティアの会：サークル会員29名（令和2年3月31日 現在）

| 活　動　内　容 | 参加者 |
|---|---|
| サクラソウに関する作業（除草・植替え・大町駅展示運搬・灌水等） | 62人 |
| 館内ガイド、イベント受付、公開ライチョウガイド等 | 44人 |
| 環境整備（車庫片付け・図書館書籍整理・除草等）封入作業 | 88人 |
| 研修（白山高山植物園・ふれあい昆虫館） | 18人 |
| 延べ参加人数 | 212人 |

③山花めぐり紀行：サークル会員 13 人（令和 2 年 3 月 31 日 現在）〈事務局担当：千葉悟志〉

| 活動日 | 内　容 | 参加者 |
|---|---|---|
| 平成 31 年 4 月 7 日（日） | 31 年度総会と自然観察会【居谷里湿原】 | 6 人 |
| 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月 | 植物さく葉標本づくり（約 2,500 点） | 延べ 73 人 |
| 平成 31 年 4 月～令和元年 10 月 | 植物分布調査（池田町・松川村）5 回（6 月未実施） | 延べ 14 人 |
| 令和元年 5 月 3 日（金）・4 日（土） | 居谷里湿原自然観察会（市文化財センター主催）講師派遣 | 3 人 |
| 令和元年 5 月 28 日（火）・30 日（木） | 高山植物の植え替え作業協力 | 4 人 |
| 令和元年 6 月 2 日（日） | 針ノ木慎太郎祭（針ノ木慎太郎祭実行委員会主催）講師派遣 | 2 人 |
| 令和元年 6 月 29 日（土）・30 日（日） | ボランティアの会との合同研修会（白山高山植物園・石川県ふれあい昆虫館） | 2 人 |
| 令和元年 7 月 23 日（火）～25 日（木） | 高山植物の訪花昆虫調査協力（白馬岳） | 2 人 |
| 令和元年 10 月 13 日（水）・18 日（月） | 高山植物の種子の播種作業協力 | 5 人 |

※合同研修会の人数はボランティアの会会員の重複を除く

④山岳文化研究会：サークル会員 9 人（令和 2 年 3 月 31 日 現在）〈事務局担当：関悟志・関本景香〉

| 活動日 | 内　容 | 参加者 |
|---|---|---|
| 令和元年 8 月 8 日（木） | 第 1 回定例会（山博） | 3 人 |
| 令和元年 9 月 21 日（土） | 第 2 回定例会（山博）山岳図書資料の配架作業 | 5 人 |
| 令和元年 10 月 5 日（土） | 研修会兼第 3 回定例会（白馬村ウイング 21）<br>白馬山案内人組合創立 100 周年記念イベント「HAKUBA 山フェスタ」参加 | 5 人 |
| 【中止】令和 2 年 2 または 3 月 | 第 4 回定例会（山博） | ― |

## 8　ライチョウ会議（担当：鈴木啓助・栗林勇太）

### (1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学 中村浩志特任教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。構成員の運営によって年 1～2 回程度会議を開催しているが、事務局として当館では、会議開催の調整・通知、会議資料作成などの事務を行っている。

### (2) ライチョウ会議大会

本年度は大会を行わず、来年度に岐阜県及び岐阜大学が主体となって「ライチョウ会議岐阜大会」を行うことが決定した。

## 9　長野県山岳総合センターとの連携事業（調整：鈴木啓助・清水隆寿）

平成 30 年 10 月 4 日に開催した山岳総合センターとの連携調整会議において、平成 31 年度は以下の事業を連携して行うこととなり実施した。

**(1) 市立大町山岳博物館・長野県山岳総合センター・大町山岳博物館友の会 共催事業**
**平成 31 年度 大町山岳博物館友の会 総会記念講演会**
**「チベット・シュエラプカンリ初登頂と高所順応」**（担当：清水隆寿）
※内容等の詳細は P8 に記載の通り

**(2) 長野県山岳総合センター創立 50 周年記念事業への参加**（参加：清水隆寿・関悟志）
a. **主　催**：長野県山岳総合センター
b. **期　日**：令和元年 11 月 9 日（土）　午前 9 時～
c. **場　所**：サン・アルプス大町
d. **内　容**：記念式典及び講演会

**(3) 平成 31 年度 連携事業の課題**
これまで相互で対応をしていた学校集団登山の事前学習について、安全登山や北アルプスの自然や登山史などの学習内容を組み合わせ、両者で共同してプログラムを作成する予定であったが、これについては実施を進めることができなかった。また山岳博物館でのクイズラリーや山岳総合センターでのボルダリングなど、単位子ども会向けのレクリエーションプログラムを作成し、各地区の子ども会育成会などへ案内を行うなどを予定していたが、こちらも実現出来ずに終わり来年度以降の課題としたい。

# Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

## 1　動物飼育繁殖（担当：栗林勇太・宮野典夫・遠藤モナミ・多田晴彦・小里玲奈・唐澤沙波）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見ていただくという考え方を大切にし、以下の基本方針を定めている（平成 24 年度策定）。

○生体展示･･･生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
○教育普及への活用･･･飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
○傷病鳥獣の救護･･･傷ついたり病気になったりした野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
○希少種の保護･･･希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
○施設整備の充実･･･付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業に関わり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではニホンカモシカとライチョウを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルプス動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

**飼育動物**（令和 2 年 3 月 31 日現在）　　（単位：個体）

| 種　名 | 雄 | 雌 | 不明 | 計 | 種　名 | 雄 | 雌 | 不明 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ニホンカモシカ | 1 | 3 | | 4 | トビ | | | 8(8) | 8(8) |
| ホンドタヌキ | 1(1) | | | 1(1) | フクロウ | | | 1(1) | 1(1) |
| ハクビシン | 2(2) | 1(1) | | 3(3) | チョウゲンボウ | 1(1) | 1(1) | | 2(2) |
| | | | | | キジバト | | | 2(2) | 2(2) |
| | | | | | アオクビアヒル | 1(1) | | | 1(1) |
| | | | | | スバールバルライチョウ | 1 | 1 | | 2 |
| | | | | | ライチョウ | 5 | 3 | | 8 |
| 計 | 4(3) | 4(1) | | 8(4) | 計 | 8(2) | 5(1) | 11(11) | 24(14) |
| | | | | | | | | | |

・哺乳類　3（2）種・8（4）個体
・鳥類　　7（5）種・24（14）個体　　合計　10（8）種・32（18）個体
※括弧内の数は救護動物の種数・個体数

### (1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。平成 28 年度よりライチョウの飼育を再開し、同年に乗鞍岳で採卵した卵の孵化と育雛に取り組んだ。ライチョウの繁殖に取り組み、1 ツガイから 7 羽の雛が産まれ、そのうち令和 2 年 3 月 31 日現在 3 羽が無事成長している。ニホンカモシカについては、当館で飼育中の個体の繁殖は行っていないが、埼玉県こども動物自然公園に貸し出し中のオスが繁殖に成功し、産まれた個体が当館の帰属となった。

**①ニホンカモシカ**

**a. 出生・導入個体**

埼玉県こども動物自然公園にブリーディングローンとして貸し出し中の個体（オス・愛称クロベ、平成 21 年～）について同園で平成 30 年に繁殖の取り組みがなされ、同年 6 月 17 日に第 2 仔が産まれた。令和元年 9 月に同園と協議の上、産まれた個体（愛称モモ）を当館の帰属とすることが決定した。当該個体はニホンカモシカの計画管理者（富山市ファミリーパーク）による指示のもと、血統管

理等の観点から同年 11 月に長野市茶臼山動物園とブリーディングローンを結び、貸し出しすることが決定した。

b. 死亡個体

なし。

c. 転出個体

現在、ブリーディングローンとして付属園内で繁殖したニホンカモシカを富山市ファミリーパーク（メス・愛称さくら、平成 15 年～）、埼玉県こども動物自然公園（オス・愛称クロベ、平成 21 年～）及び埼玉県こども動物自然公園で繁殖したクロベの仔を長野市茶臼山動物園（メス・愛称モモ、令和元年～）に各 1 頭貸出し中。

d. 今後の計画

新たな野外個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として繁殖を行いたいが付属園の設備、特にカモシカ飼育施設の整備が整うまで計画を保留にする。また、国内動物園間でブリーディングローンを行うことを視野に入れ、他の飼育園館に向けて情報共有を行う。

長野市茶臼山動物園に貸し出し中の個体が繁殖した場合、第 1 子が当館の帰属となる契約を結んだことから、付属園の整備状況等を勘案しながら受け入れの検討を行う。

②ライチョウ

a. 概要

年度当初飼育していた 6 羽の個体について、1 ツガイを飼育繁殖技術向上の観点から繁殖に取り組んだことにより 7 羽の雛が誕生した。産まれた 7 羽のうち 4 羽が死亡、残りの 3 羽が現在まで生育している。また、遺伝的多様性を考慮した取り組みにより、2017 年に産まれたメスの 1 羽を、いしかわ動物園に移動させた。令和 2 年 3 月 31 日現在、オス 5 羽・メス 3 羽の計 8 羽を飼育している。

b. 繁殖

昨年度に引き続き同じペア（オス：ファウンダーN20、メス：F1 の N24）で繁殖に取り組んだ。結果 20 卵の産卵が見られ、内 8 卵を那須どうぶつ王国に種卵移動した。残り 12 卵については人工孵化の取り組みを行った結果、7 羽が孵化した。

c. 死亡個体

孵化した 7 羽のうち、4 羽が死亡した。死因究明を日本獣医生命科学大学山本教授に依頼したところ、総合的な所見として、サルモネラ感染症が検出されたことから感染症の疑いが生じた。

d. 転出個体

孵化率・育雛率の向上を目指し、遺伝的多様性に配慮した取り組みを、国内の全個体を対象に行っている。当館では令和 2 年 1 月 23 日に 2017 年生まれのメス 1 羽（N32）をいしかわ動物園に生体移動させた。

(2) 希少野生動物繁殖以外の飼育動物の増減

譲渡や受け入れ、死亡等により下記の動物の増減があった。

| 月・日 | 種　名 | 雌雄 | 記号・愛称 | 事　由 |
|---|---|---|---|---|
| 令和元年 5 月 25 日 | ニホンキジ | 雄 | パパ | 死亡 |
| 令和元年 12 月 9 日 | スバールバルライチョウ | 雌 | 15-s01<br>なっちゃん | 搬出（飯田動物園へ譲渡） |
| 令和 2 年 2 月 21 日 | スバールバルライチョウ | 雌 | 15-s06<br>もんちゃん | 搬出（富山市ファミリーパークへ譲渡） |
| 令和 2 年 3 月 16 日 | スバールバルライチョウ | 雄 | S346 | 受入（横浜市繁殖センターから譲渡） |

(3) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣救護については、昭和 28 年頃の付属園併設以降、野生動物の保護や近隣住民への教育的配慮の観点から独自に行ってきたが、平成 9 年度からは長野県の指導を受けて行うようになり、平成 17 年度からは長野県の野生傷病鳥獣救護事業委託の受託によって行っており、現在、大北地域における野生傷病鳥獣救護施設としてケガや病気の野生動物を収容している。

しかし、近年のライチョウの飼育再開に伴い、防疫上の観点や関係法令等に基づいた適切な対応を考慮し、平成27年度以降、傷病鳥獣の新規受け入れを行っていない。なお、平成26年度までに収容された傷病鳥獣については引き続き保護・飼養を行い、救護事業への寄与を継続して行っている。

**(4) アルプス動物園交換動物**

友好提携を結んでいるオーストリア・インスブルック市のアルプス動物園から交換動物として贈られたヨーロッパ・チロル地方の野生動物（アルプスマーモット、ヨーロッパオオライチョウ、シベリアオオヤマネコ、シャモア）を昭和60（1985）年から平成23（2011）年まで飼育していたが、現在、飼育個体はいない。

## 2　植物栽培繁殖（担当：千葉悟志）

**(1) 栽培植物**

**①栽培植物の増減**

減：トモエシオガマ、キバナノコマノツメ、コマガタケスグリ

**②栽培植物**

アズミノヘラオモダカ（長野県絶滅危惧ⅠA類）、イヤリトリカブト（長野県絶滅危惧ⅠA類）、トガクシソウ（長野県絶滅危惧ⅠA類）、ビッチュウフウロ（長野県絶滅危惧ⅠB類）、サクラソウ（長野県絶滅危惧Ⅱ類、長野県希少野生植物指定種）、トキソウ（絶滅危惧Ⅱ類）、ササユリ（長野県準絶滅危惧・長野県指定希少野生植物指定種）、カキツバタ（長野県準絶滅危惧）、フクジュソウ（長野県準絶滅危惧）、コオニユリ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、ミズバショウ、リュウキンカ、サワギキョウ、モウセンゴケ、コマクサ、ズダヤクシュ、オヤマリンドウ、ハクサンフウロ、ミヤマセンキュウ、クロトウヒレン、ヤマガラシ、ミネウスユキソウ、ミヤマトウキ、ミヤマオトコヨモギ、ミヤマダイコンソウ、ヤマブキショウマ、コケモモ、マイヅルソウ、ミヤマコウゾリナ、クロユリ、ガンコウラン、クロマメノキ、ハクサンコザクラ、ハクサンボウフウ、チングルマ、タカネナナカマド、クロウスゴ、ベニバナイチゴ、ミツバオウレン、ウラジロナナカマド、ホンドミヤマネズ、ミヤマキンポウゲ、オンタデ、イワギキョウ、イブキトラノオ、タカネマツムシソウ、ハクサンタイゲキ、カライトソウ、イワオウギ、ミヤマクワガタ、ミソガワソウ、ミヤマセンキュウ、ゼンテイカ、タテヤマウツボグサ、ゴゼンタチバナ、エゾスグリ、コメススキ、ハクサンシャクナゲ、ハイマツ、ヤマブキショウマ、シナノオトギリ、アイヌソモソモ、アキギリ、ヨツバシオガマ

**a. 栽培の状況**

昨年度、新たに試みたライチョウ舎展示棟周辺への高山植物の移植は、大方、定着し開花する個体も見られたことから標高約780mの当館でも栽培が可能であることがわかった。

また、枯死したと思われたヨツバシオガマの開花が見られたことは半寄生であっても栽培が可能であることを示唆するもので、コメススキ等との混植が成果につながったものと思われる。今後もエリアを拡大し、気軽に高山植物が観察できるよう栽培を続けたい。

## 3　付属園整備（担当：鈴木啓助・栗林勇太）

**(1) 付属園整備構想の計画見直しについて**

**①経過と方針**

博物館付属園整備構想及び計画については、平成25年度に一度作成しているところであるが、その後に行われたライチョウ舎の増設工事との整合性を図るため、ライチョウ舎以外の整備計画作成に着手すべく、平成30年度において大町市教育委員会、大町市社会教育委員会、市立大町山岳博物館協議会、大町山岳博物館友の会（役員対象）に意見聴取をさせていただき、この結果を踏まえて館内において協議を重ねてきた。

現行構想においては「市民に愛される付属園」とされ、付属園が今日まで市民や観光客に親しまれてきた経過を考慮すると、整備構想の見直しに際し、ライチョウとカモシカ以外の動物の飼育も視野に、どの程度の動物飼育（種類・飼育数）が当館の施設規模や組織体制に即して適正であるのか、さらには財政的な施設整備の投資に見合うのか等、時間をかけて慎重に協議を進めていくこととなっ

た。平成31年度中の整備構想の見直しとなったが、実施計画の策定にはいかず、令和2年度中に整備計画・実施計画の作成を完了することとなった。

**②主な課題点**

・カモシカの飼育繁殖のための施設形態と適正規模を検討。
・導入動物の種類に際し、飼育や繁殖計画の策定、施設規模や施設内容等について（動物エンリッチメントへの配慮、繁殖の可否、入手方法、業務量の検討）。
・イヌワシ舎の利活用か撤去かの検討。
・コレクションプランについての調査研究と導入。
・予算規模（投資規模や年間のランニングコスト）とスタッフ体制の検討。
・付属園設置要綱等が未整備なため、整備構想・見直しの基盤が定まらない状況（付属園設置要綱を構想・計画の見直しに合わせ策定）。
・ライチョウ、カモシカを主体とした施設規模等に応じた飼育可能な導入動物の飼育繁殖方法等の検討。
・新たな付属園構想には高山植物や岩石・鉱物の展示、学習や滞留空間、憩いの場の創出のための検討を行っているが、具体案の検討を行う。

以上、主だった課題点を列挙したが、これらの課題解決を図りながら、令和2年度内に整備構想・実施計画の策定を行う。

## 4　公益社団法人日本動物園水族館協会（担当：鈴木啓助・栗林勇太・宮野典夫）

公益社団法人日本動物園水族館協会（略称：日動水、JAZA）は、国際的な視野に立って、自然や貴重な動物を保護するためにできた国内の動物園や水族館の組織。日本全体の視野に立って、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」という4つの目的を中心に、単独の園館ではできないことを協力して行っており、当館では付属園で動物を飼育していることから、同協会へ加盟している。

本年度においても例年通り、随時、各種調査への報告等を行ったほか、各種会議・研修への出席参加などを行った。

# Ⅴ　その他

## 1　各種委員等の委嘱他

環境省ライチョウ保護増殖検討委員会 委員（宮野典夫）
ライチョウ会議 運営委員（宮野典夫）
ライチョウ会議 事務局（鈴木啓助、栗林勇人）
全国山岳博物館等連絡会議［主催：公益社団法人日本山岳会］（関悟志）
長野県博物館協議会 監査（鈴木啓助）
信州大学・大町市連携協議会 委員（鈴木啓助）
高山植物等保護対策協議会 中信地区会員（鈴木啓助）
松本市基幹博物館建設検討委員会 展示専門部会 委員（関悟志）
安曇野アートライン推進協議会 幹事（鈴木啓助）／同協議会 美術館・博物館部会（関本景香）
大北地区野生鳥獣保護管理対策協議会 委員（鈴木啓助）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会 参与（鈴木啓助）
大町市文化財保護審議会 委員（矢野孝雄）
長野県科学振興会大町支部 理事（千葉悟志）
大町桜まつり実行委員会 委員（鈴木啓助）
針ノ木岳慎太郎祭実行委員会 副大会長（鈴木啓助）
大町博物館連絡会 理事（鈴木啓助） 幹事（関本景香）
〃　代表 大町市観光協会 理事／同協会 財政組織部会 委員（鈴木啓助）
大町市イベント実行委員会 委員（鈴木啓助）

大町博物館連絡会 代表 大町市青少年育成協議会 理事（関悟志）
北アルプス雪形まつり実行委員会 実行委員（清水隆寿）
美術展ベストセレクション in 信濃大町実行委員会・選考委員（清水隆寿）
信濃大町山岳フェスティバル実行委員会 実行委員（関悟志）

## 2　アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。

「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

平成 27 年 4 月 8 日、友好提携 30 周年を記念し、友好提携再締結をした。

## 3　信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。

「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

## 4　長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成 26 年 3 月 25 日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する協定について締結をした。

「長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）　なお連携協定の有効期間は、締結日から 5 年間と定められていることから、あらためて、相互に協定書を交わし、平成 31 年 4 月 1 日に再締結を行った。有効期間は、令和 6 年 3 月 31 日までの 5 年間とする。

## 5　ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結

平成 27 年 6 月 18 日、公益財団法人富山市ファミリーパーク公社と当館は、次のような目的による連携に関する協定について締結をした。

「ニホンライチョウは国の特別天然記念物にも指定されている日本を代表する鳥類であるが、近年は絶滅が危惧され、国の保護増殖事業計画種にも指定されている。両園館は互いに隣接する、ニホンライチョウの生息県に所在する園館として、ニホンライチョウの保護増殖を目的に、ライチョウ類の飼育繁殖技術の連携に関する協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

# Ⅵ　運営

## 1　組織および職員構成

### (1) 組織

大町市教育委員会
- 教育長 ― 教育次長
  - 顧問
  - 協議会
  - 館長 ― 副館長
    - 庶務
    - 学芸員
    - 嘱託職員（専門員・指導員・獣医師）
    - 臨時職員（事務員兼資料整理員・動物飼育員）

### (2) 顧問

千葉彬司（令和元年 9 月 17 日逝去）、小坂共栄（平成 28 年 3 月 1 日～）

### (3) 協議会委員

学校教育および社会教育の関係者：山岸澄雄、宮澤洋介
家庭教育の向上に資する活動を行う者：柳澤英幸、赤坂隆宏
学識経験のある者：岡田忠興、村越直美、佐藤悟、堀田昌伸、菊原昭一、須田哲、丸山祥子
公募による市民等：大日方三郎

### (4) 職員

**①配置**

館　　長　鈴木啓助
副 館 長　清水隆寿（人文科学系学芸担当兼庶務）
学 芸 員　千葉悟志（自然科学系植物担当）、関悟志（人文科学系担当）、
　　栗林勇太（自然科学系動物担当）、関本景香（人文科学系担当）
専 門 員　矢野孝雄（自然科学系地質担当）
指 導 員　宮野典夫（学芸担当）
獣 医 師　望月明義（～令和 2 年 2 月 29 日 非常勤）、横沢豊（令和 2 年 3 月 1 日～ 非常勤）
臨時職員　家城良好（事務員兼資料整理員）
　　遠藤モナミ・多田晴彦・小里玲奈・唐澤沙波（動物飼育員）

**②人事異動**

新　　任　館　　長　鈴木啓助（平成 31 年 4 月 1 日）
　　学 芸 員　関本景香（平成 31 年 4 月 1 日 新規採用）
　　動物飼育員（臨時職員）小里玲奈・唐澤沙波（平成 31 年 4 月 1 日 新規採用）
転　　出　館　　長　鳥羽章人（平成 31 年 4 月 1 日　大町市役所産業観光部農林水産課 課長）
退　　職　専 門 員　矢野孝雄（令和 2 年 3 月 31 日）
　　指 導 員　宮野典夫（令和 2 年 3 月 31 日）
　　動物飼育員（臨時職員）多田晴彦（令和 2 年度 大町市役所正規職員採用予定）

## 2　市立大町山岳博物館協議会

協議委員任期：平成 31 年度は任期改選の年にあたり、以下のとおり協議委員を委嘱した。
　　平成 31 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日〔任期：2 年間〕
協議委員名簿：山岸澄雄（学校教育関係者）
　　宮澤洋介（社会教育関係者）　※協議会会長
　　柳澤英幸（家庭教育活動者）
　　赤坂隆宏（家庭教育活動者）

岡田忠興（学識経験者）　　※協議会副会長
村越直美（学識経験者）
佐藤　悟（学識経験者）
堀田昌伸（学識経験者）
菊原昭一（学識経験者）
須田　哲（学識経験者）
丸山祥子（学識経験者）
大日方三郎（公募市民）

**(1) 平成 31 年度 第 1 回協議会**

**①日　時**：令和元年 11 月 29 日（金）　午後 2～4 時
**②場　所**：市立大町山岳博物館 講堂
**③出席委員**：宮澤洋介・岡田忠興・柳澤英幸・村越直美・堀田昌伸・菊原昭一・丸山祥子・大日方三郎
**④内　容**：委嘱書交付
報告事項
・平成 30 年度（前年度）事業概要及び予算について
・令和元年度事業の進捗状況について
協議事項
・付属園整備構想の方向性と計画について

**(2) 平成 30 年度 第 2 回協議会【中止】**

平成 31 年 3 月末日に第 2 回山岳博物館協議会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、本年度の第 2 回目の協議会は中止とした。

## 3　入館者状況

### (1) 過去の入館者状況

（単位：人）

| 年度 | 有料入館者 | | | | | | | 無料入館者 | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 個人 | | | 団体 | | | 小計 | 一般減免 | 市内 | | 小計 | |
| | 大人 | 高校生 | 小中生 | 大人 | 高校生 | 小中生 | | | 65歳以上 | 小中生 | | |
| S26 | 291 | | 100 | 21 | | 77 | 489 | | | | | 489 |
| 27 | 2,425 | | 1,022 | 186 | | 1,514 | 5,147 | | | | | 5,147 |
| 28 | 8,922 | | 2,229 | 725 | | 1,216 | 13,092 | | | | | 13,092 |
| 29 | 7,779 | | 1,831 | 625 | | 1,189 | 11,424 | | | | | 11,424 |
| 30 | 6,831 | | 1,664 | 1,445 | | 945 | 10,885 | | | | | 10,885 |
| 31 | 2,148 | | 888 | 1,036 | | 858 | 4,930 | | | | | 4,930 |
| 32 | 1,934 | | 658 | 826 | | 1,880 | 5,298 | | | | | 5,298 |
| 33 | 2,979 | | 1,032 | 1,469 | | 2,417 | 7,897 | | | | | 7,897 |
| 34 | 2,972 | | 626 | 1,727 | | 1,788 | 7,113 | | | | | 7,113 |
| 35 | 3,635 | | 878 | 1,943 | | 2,143 | 8,599 | | | | | 8,599 |
| 36 | 4,181 | | 1,329 | 2,132 | | 2,521 | 10,163 | | | | | 10,163 |
| 37 | 5,313 | | 1,633 | 4,549 | | 2,748 | 14,243 | | | | | 14,243 |
| 38 | 6,394 | | 1,854 | 4,727 | | 2,918 | 15,893 | | | | | 15,893 |
| 39 | 10,464 | | 1,658 | 12,600 | | 1,520 | 26,242 | | | | | 26,242 |
| 40 | 14,214 | | 1,696 | 8,050 | | 1,600 | 25,560 | | | | | 25,560 |
| 41 | 10,399 | | 1,711 | 13,070 | | 1,500 | 26,680 | | | | | 26,680 |
| 42 | 12,891 | | 1,649 | 8,301 | | 3,059 | 25,900 | | | | | 25,900 |
| 43 | 18,458 | | 2,071 | 17,769 | | 3,240 | 41,538 | | | | | 41,538 |
| 44 | 16,273 | | 2,100 | 10,845 | | 3,749 | 32,967 | | | | | 32,967 |
| 45 | 13,405 | | 1,941 | 11,623 | | 3,960 | 30,929 | | | | | 30,929 |
| 46 | 18,414 | | 3,001 | 14,718 | | 3,193 | 39,326 | | | | | 39,326 |
| 47 | 17,500 | | 3,025 | 13,268 | | 6,877 | 40,670 | | | | | 40,670 |
| 48 | 25,809 | | 4,178 | 22,612 | | 5,774 | 58,373 | | | | | 58,373 |
| 49 | 28,702 | | 4,277 | 23,432 | | 5,843 | 62,254 | | | | | 62,254 |
| 50 | 32,345 | | 4,896 | 23,616 | | 6,835 | 67,692 | | | | | 67,692 |
| 51 | 32,111 | | 5,142 | 25,150 | | 8,200 | 70,603 | | | | | 70,603 |
| 52 | 26,155 | | 4,311 | 18,907 | | 5,327 | 54,700 | | | | | 54,700 |
| 53 | 26,346 | | 4,158 | 24,903 | | 8,722 | 64,129 | | | | | 64,129 |
| 54 | 27,769 | | 4,485 | 25,089 | | 6,600 | 63,943 | | | | | 63,943 |
| 55 | 25,743 | | 4,414 | 19,909 | | 6,972 | 57,038 | | | | | 57,038 |
| 56 | 31,697 | | 7,558 | 16,182 | | 9,695 | 65,132 | | | | | 65,132 |
| 57 | 31,894 | 809 | 6,400 | 10,391 | 5,827 | 6,929 | 62,250 | 7,965 | | | 7,965 | 70,215 |
| 58 | 33,590 | 988 | 6,632 | 15,885 | 7,992 | 12,303 | 77,390 | 9,026 | | | 9,026 | 86,416 |
| 59 | 30,335 | 816 | 5,905 | 12,969 | 9,172 | 15,070 | 74,267 | 8,117 | | | 8,117 | 82,384 |
| 60 | 36,686 | 1,142 | 8,025 | 22,782 | 8,559 | 15,902 | 93,096 | 6,770 | | | 6,770 | 99,866 |
| 61 | 34,797 | 1,086 | 6,109 | 16,001 | 8,107 | 16,069 | 82,169 | 4,509 | | | 4,509 | 86,678 |
| 62 | 33,132 | 918 | 5,581 | 18,751 | 7,065 | 17,186 | 82,633 | 3,605 | | | 3,605 | 86,238 |
| 63 | 36,116 | 841 | 5,932 | 14,947 | 6,085 | 14,735 | 78,656 | 6,269 | | | 6,269 | 84,925 |
| H1 | 41,018 | 1,199 | 6,450 | 13,191 | 4,650 | 10,527 | 77,035 | 3,709 | | | 3,709 | 80,744 |
| 2 | 43,444 | 1,108 | 6,752 | 16,486 | 3,045 | 7,119 | 77,954 | 4,844 | | | 4,844 | 82,798 |
| 3 | 47,004 | 1,276 | 7,313 | 13,817 | 4,212 | 8,278 | 81,900 | 4,577 | | | 4,577 | 86,477 |
| 4 | 42,197 | 725 | 5,719 | 13,068 | 1,687 | 7,015 | 70,411 | 3,413 | | | 3,413 | 73,824 |

| 年度 | 有料入館者 | | | | | | | 無料入館者 | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 個人 | | | 団体 | | | 小計 | 一般減免 | 市内 | | 小計 | |
| | 大人 | 高校 | 小中 | 大人 | 高校 | 小中 | | | 65歳以上 | 小中生 | | |
| 5 | 45,182 | 809 | 5,807 | 12,249 | 2,807 | 5,325 | 72,179 | 3,587 | | | 3,587 | 75,766 |
| 6 | 38,354 | 933 | 4,809 | 10,561 | 1,932 | 4,974 | 61,563 | 3,376 | | | 3,376 | 64,939 |
| 7 | 37,356 | 981 | 4,650 | 9,493 | 1,840 | 4,164 | 58,484 | 5,376 | | | 5,376 | 63,860 |
| 8 | 36,002 | 869 | 4,189 | 6,601 | 1,905 | 2,244 | 51,810 | 2,174 | | | 2,174 | 53,984 |
| 9 | 31,119 | 626 | 3,417 | 7,626 | 1,245 | 2,100 | 46,133 | 1,429 | | | 1,429 | 47,562 |
| 10 | 28,219 | 637 | 3,105 | 6,023 | 764 | 2,006 | 40,754 | 1,686 | | | 1,686 | 42,440 |
| 11 | 24,220 | 482 | 2,200 | 4,766 | 561 | 1,183 | 33,412 | 1,206 | | | 1,206 | 34,618 |
| 12 | 23,082 | 501 | 2,273 | 5,344 | 648 | 1,024 | 32,872 | 1,187 | | | 1,187 | 34,059 |
| 13 | 24,064 | 439 | 2,163 | 3,389 | 671 | 1,577 | 32,303 | 1,497 | 387 | 826 | 2,710 | 35,013 |
| 14 | 20,527 | 472 | 1,744 | 2,518 | 675 | 808 | 26,744 | 1,013 | 191 | 451 | 1,655 | 28,399 |
| 15 | 19,693 | 535 | 2,152 | 2,184 | 785 | 1,082 | 26,431 | 990 | 285 | 616 | 1,891 | 28,322 |
| 16 | 14,664 | 376 | 1,073 | 2,875 | 602 | 644 | 20,234 | 604 | 51 | 662 | 1,317 | 21,551 |
| 17 | 12,065 | 213 | 630 | 3,138 | 692 | 928 | 17,666 | 1011 | 97 | 491 | 1,599 | 19,265 |
| 18 | 14,056 | 135 | 996 | 3,120 | 545 | 1,836 | 20,688 | 1,825 | 162 | 688 | 2,675 | 23,363 |
| 19 | 10,991 | 120 | 742 | 2,401 | 407 | 1,037 | 15,698 | 1,087 | 94 | 693 | 1,874 | 17,572 |
| 20 | 11,532 | 130 | 803 | 2,766 | 381 | 578 | 16,190 | 1,518 | 188 | 619 | 2,325 | 18,515 |
| 21 | 11,269 | 100 | 704 | 3,055 | 61 | 1,098 | 16,287 | 1,164 | 143 | 348 | 1,655 | 17,942 |
| 22 | 9,578 | 103 | 594 | 2,665 | 466 | 467 | 13,873 | 955 | 116 | 203 | 1,274 | 15,147 |
| 23 | 12,376 | 127 | 855 | 2,963 | 328 | 1,396 | 18,045 | 2,023 | 146 | 819 | 2,988 | 21,033 |
| 24 | 9,827 | 114 | 640 | 2,335 | 498 | 587 | 14,001 | 1,294 | 94 | 783 | 2,171 | 16,172 |
| 25 | 7,550 | 97 | 522 | 2,008 | 142 | 353 | 10,672 | 919 | 162 | 409 | 1,490 | 12,162 |
| 26 | 12,249 | 120 | 892 | 3,146 | 655 | 370 | 17,432 | 2,450 | 422 | 615 | 3,487 | 20,919 |
| 27 | 10,427 | 101 | 795 | 2,729 | 444 | 610 | 15,106 | 2,350 | 214 | 572 | 3,136 | 18,242 |
| 28 | 9,774 | 98 | 709 | 2,442 | 433 | 540 | 13,996 | 2,008 | 127 | 759 | 2,894 | 16,890 |
| 29 | 10,210 | 77 | 735 | 3,084 | 230 | 1,176 | 15,512 | 2,477 | 217 | 486 | 3,180 | 18,692 |
| 30 | 10,795 | 79 | 840 | 2,895 | 245 | 826 | 15,680 | 2,878 | 117 | 422 | 3,417 | 19,097 |
| R1 | 11,459 | 115 | 1,070 | 3,305 | 247 | 391 | 16,587 | 2,882 | 84 | 328 | 3,294 | 19,881 |
| 計 | 1,361,352 | 20,297 | 197,942 | 615,424 | 86,610 | 285,337 | 2,566,962 | 113,770 | 3,297 | 10,790 | 127,857 | 2,694,819 |

(2) 令和元年度の入館者状況　　（単位：人）

| 月 | 有料入館者 | | | | | | | 無料入館者 | | | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 個人 | | | 団体 | | | 小計 | 一般減免 | 市内 | | | |
| | 大人 | 高校 | 小中生 | 大人 | 高校 | 小中生 | | | 65歳以上 | 小中生 | | |
| 4 | 1,294 | 9 | 121 | 264 | 0 | 24 | 1,712 | 272 | 8 | 2 | 282 | 1,994 |
| 5 | 1,463 | 24 | 140 | 302 | 2 | 54 | 1,985 | 375 | 7 | 11 | 393 | 2,378 |
| 6 | 780 | 3 | 36 | 388 | 233 | 17 | 1,457 | 183 | 5 | 12 | 200 | 1,657 |
| 7 | 1,338 | 8 | 102 | 584 | 2 | 54 | 2,088 | 276 | 11 | 61 | 348 | 2,436 |
| 8 | 2,169 | 42 | 423 | 627 | 7 | 130 | 3,398 | 485 | 10 | 16 | 511 | 3,909 |
| 9 | 985 | 1 | 38 | 191 | 0 | 11 | 1,226 | 436 | 2 | 7 | 445 | 1,671 |
| 10 | 860 | 1 | 32 | 294 | 0 | 7 | 1,194 | 272 | 2 | 40 | 314 | 1,508 |
| 11 | 889 | 2 | 34 | 189 | 0 | 64 | 1,178 | 182 | 13 | 33 | 228 | 1,406 |
| 12 | 386 | 8 | 21 | 135 | 0 | 6 | 556 | 96 | 6 | 93 | 195 | 751 |
| 1 | 273 | 1 | 24 | 46 | 0 | 4 | 348 | 116 | 7 | 20 | 143 | 491 |
| 2 | 531 | 7 | 47 | 226 | 0 | 12 | 823 | 93 | 3 | 29 | 125 | 948 |
| 3 | 491 | 9 | 52 | 59 | 3 | 8 | 622 | 96 | 10 | 4 | 110 | 732 |
| 計 | 11,459 | 115 | 1,070 | 3,305 | 247 | 391 | 16,587 | 2882 | 84 | 328 | 3,294 | 19,881 |
| 前年 | 10,795 | 79 | 840 | 2,895 | 245 | 826 | 15,680 | 2,878 | 117 | 422 | 3,417 | 19,097 |
| 前年度比 | 106.2% | 145.6% | 127.4% | 114.2% | 100.8% | 47.3% | 105.8% | 100.1% | 71.8% | 77.7% | 96.4% | 104.1% |

(3) 令和元年度の開館日数

全317日

## 4　令和元年度予算・決算

(1) 歳入　　（単位：円）

| 項　目 | 観覧料 | 県委託金（傷病鳥獣救護） | 寄附金 | 雑　入 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 当初予算額(A) | 6,280,000 | 160,000 | 0 | 380,000 | 6,820,000 |
| 決 算 額(B) | 6,109,302 | 126,000 | 570,310 | 545,174 | 7,350,786 |
| 比　較(B-A) | △170,698 | △34,000 | 570,310 | 165,174 | 530,786 |

(2) 歳出　　（単位：円）

| 項　目 | 一般職員人件費 | 管理運営一般経費 | 教育普及事業 | 調査研究事業 | 資料収集保管事業 |
|---|---|---|---|---|---|
| 当初予算額(A) | 38,386,000 | 27,236,468 | 4,380,000 | 294,000 | 3,040,000 |
| 決 算 額(B) | 33,999,000 | 25,653,318 | 3,409,083 | 246,067 | 2,739,893 |
| 比　較(B-A) | △4,387,000 | △1,583,150 | △970,917 | △47,933 | △300,107 |
| 項　目 | 動植物飼育栽培事業 | ライチョウ飼育事業 | 付属園整備事業 | | 合　計 |
| 当初予算額(A) | 7,000,000 | 8,750,000 | 1,083,432 | | 90,169,900 |
| 決 算 額(B) | 6,550,736 | 7,974,768 | 867,570 | | 81,440,435 |
| 比　較(B-A) | △449,264 | △775,232 | △215,862 | | △8,729,465 |

## 5　ミュージアムカフェ・ショップ（担当：清水隆寿）

大町山岳博物館では、博物館を利用する来館者及び大町公園や東山へのトレッキングなどの利用者への利便性の向上を図ることを目的に、館内にミュージアムカフェ・ショップを設置し、飲食物の提供や商品の販売を行っている。運営にあたっては、事業者を公募し、委託営業を行っている。

平成6年7月1日から平成25年11月4日にかけては、大町山岳博物館友の会に運営を委託し、喫茶・売店「こまくさ」として営業を行っていただいていた。平成26年4月から新ためて運営業者を公募し、山内優氏によりミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」と店舗名を変更し運営にあたっていただき、3年間の契約期限終了後にあらためて運営業者の公募を行った結果、引き続き下記のとおり本年度までの契約で下記業者が継続して運営を行った。

**(1) 受託者**

・氏　名：山内 優

・名　称：ミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」

**(2) 契約期間**

・平成29年4月1日～令和2年3月31日まで〔3年間〕

**(3) 令和2年度以降の運営体制について**

・令和2年3月末をもってミュージアムカフェ・ショップ運営業者との契約期間が終了することから、令和元年度中に新たな運営業者の選定を行った。

選定にあたっては、企画提案方式（プレゼンテーション）とし、第一次審査は書類審査とし、第二次審査をプレゼンテーション審査と定め、令和2年2月号の大町市広報に応募要領を掲載して募集を行った。契約期間は令和2年4月1日～令和3年3月31日（3年間まで更新可能・最長で令和5年3月31日まで継続可能）とした。

その結果、2社からの応募があり、現地説明会の後、第一次書類審査及び第二次のプレゼンテーション審査を実施した結果、山内優氏「もるげんろーと」が令和2年2月10日付で委託業者として採用が決定し、引き続き令和2年4月以降、ミュージアムカフェ・ショップの運営を行っていただくこととなった。

# Ⅶ　関係条例規則等

## 1　市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号
改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号
平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号
平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号
平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号
平成 17 年 12 月 6 日条例第 80 号
平成 24 年 3 月 26 日条例第 3 号
平成 26 年 3 月 28 日条例第 8 号
平成 29 年 3 月 15 日条例第 7 号
令和元年 12 月 23 日条例第 32 号

市立大町山岳博物館条例(昭和 29 年条例第 18 号)の全部を改正する。

(目的)

第 1 条　この条例は、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という。)第 18 条及び地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

(名称及び位置)

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

(職員)

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

(観覧料)

第 5 条　博物館を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 小学校就学の始期に達するまでの者
(2) 大町市立学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づく高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部その他これらに準ずる学校に在学する者をいう。以下同じ。)
(4) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

(観覧料の減免)

第 6 条　教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

(資料の特別利用)

第 7 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(賠償責任)

第 8 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

(博物館協議会)

第 9 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

2　協議会の委員(以下「委員」という。)は 15 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者
(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
(3) 学識経験のある者
(4) 公募による市民等
3　委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委任）
第10条　この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則
1　この条例は、昭和57年6月5日から施行する。
2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和29年条例第18号）第5条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第10条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第3項の規定にかかわらず、昭和58年3月31日までとする。
附　則（昭和61年3月24日条例第8号）
　この条例は、昭和61年4月1日から施行する。
附　則（平成元年3月24日条例第7号）
　この条例は、平成元年4月1日から施行する。
附　則（平成4年3月31日条例第8号）
　この条例は、平成4年4月1日から施行する。
附　則（平成5年12月24日条例第32号）
　この条例は、平成6年4月1日から施行する。
附　則（平成12年3月29日条例第13号）
　この条例は、平成12年4月1日から施行する。
附　則（平成13年3月27日条例第13号）
　この条例は、平成13年4月1日から施行する。
附　則（平成17年12月6日条例第80号）
　この条例は、平成18年1月1日から施行する。
附　則（平成24年3月26日条例第3号）
　この条例は、平成24年4月1日から施行する。
附　則（平成26年3月28日条例第8号）
　この条例は、平成26年4月1日から施行する。
附　則（平成29年3月15日条例第7号抄）
（施行期日）
1　この条例は、平成29年4月1日から施行する。
附　則（令和元年12月23日条例第32号）
　この条例は、令和2年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

| 種 別 | 区分 | 単位 | 観覧料 |
|---|---|---|---|
| 一般 | 大人 | 1人 | 450円 |
| | 高校生 | 〃 | 350円 |
| | 小人 | 〃 | 200円 |
| 団体<br>（30人以上の場合をいう） | 大人 | 〃 | 400円 |
| | 高校生 | 〃 | 300円 |
| | 小人 | 〃 | 150円 |

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

## 2　市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号
改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号
平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）

第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という。）の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という。）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

（休館日）

第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1) 毎週月曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）

(3) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く。）

（開館時間）

第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

（観覧券の交付）

第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。

（観覧料の減免）

第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

（博物館資料の利用等）

第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

（入館制限等）

第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 管理上支障があると認められるとき。

(3) その他教育委員会が必要と認めるとき。

（資料の寄贈及び寄託）

第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。

2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
（資料等の滅失・損傷）
第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。
（協議会の組織）
第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各 1 名を置く。
2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
（協議会の会議）
第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。
2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則
1　この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。
2　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第 9 号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号）は、廃止する。
附　則（平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号）
この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
附　則（平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号）
この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。
附　則（平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号）
この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

様式（省略）

## 3　大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
2　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
3　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
2　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
2　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附　則
　この告示は、告示の日から施行する。

# Ⅷ　市立大町山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

## 1　市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粋たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

## 2　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る　きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人とが共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

**(1) 大町市や周辺地域の人たちのために**

①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。

②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。

③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。

④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。

⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

**(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために**

①観光客・登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について、関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。

②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。

③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人とが共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

## 3　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本方針

**(1) 調査研究の推進**

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

**①調査・研究の分野・範囲**

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

**②情報収集**

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。

**③体制づくり**

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。

**(2) 資料の収集・整理、保管の推進**

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

**①収集・整理の推進**

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。

**②収集の範囲**

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。

**③保存・管理の推進**

収集された資料は適正に管理された環境おいて保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。

**(3) 調査研究の成果および収集資料の活用**

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。

**①調査・研究の成果活用**

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。

**②収集・保管の成果活用**

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。

**③保護・保全への貢献**

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。

**④体制づくり**

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。

**(4) 教育普及活動の推進**

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすくて興味が持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

**①生涯教育・社会教育の推進**

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

**②学社連携・融合の推進**

学校と博物館を結んだ事業を積極的に行い、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきっ

かけづくりをする。

**③協働の推進**

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。

**(5) 付属園（動植物園）の充実**

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。

**①生体展示**

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。

**②教育普及への活用**

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

**③傷病鳥獣の救護**

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

**④希少種の保護**

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

**⑤施設整備の充実**

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

# Ⅸ　施設

## 1　敷地面積

41,575.69 ㎡（都市公園としての開設面積）市有地：38,493.15 ㎡、民有地：3,082.54 ㎡

## 2　本館建物

(1) **構造**：鉄筋コンクリート造　地上３階 地下１階

(2) **竣工**：昭和 57 年５月 31 日竣工

(3) **面積**：建築面積 1,280.9 ㎡　延べ床面積 2,207.04 ㎡

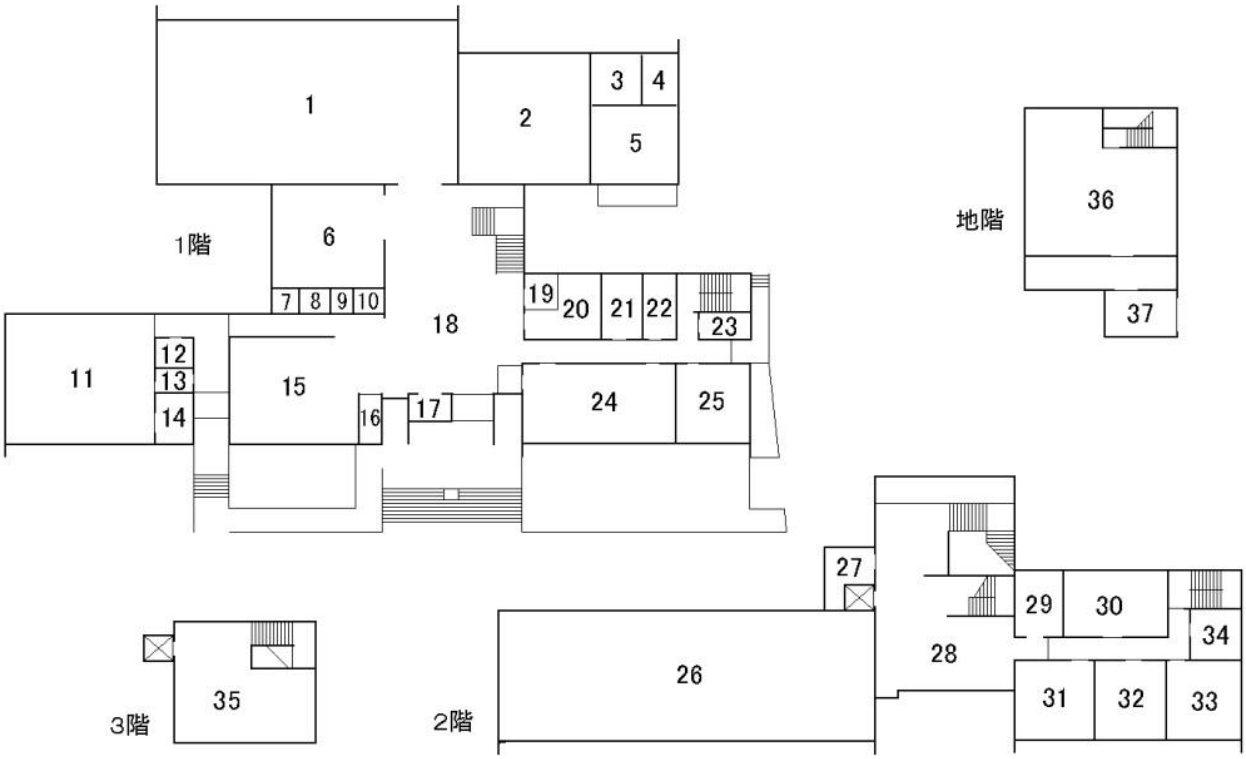
(4) **床面積表**　（単位：㎡）

| 1階　1,244.9 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 名　称 | | 面積 | 名　称 | | 面積 |
| 1 | 展示室 | 290.0 | 14 | 準備室 | 9.1 |
| 2 | 収蔵庫 | 104.0 | 15 | ｶﾌｪ･ｼｮｯﾌﾟ | 74.2 |
| 3 | ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室 | 16.4 | 16 | 授乳室 | 6.7 |
| 4 | 燻蒸室 | 12.3 | 17 | 荷物置場 | 14.4 |
| 5 | 荷解作業室 | 41.3 | 18 | ホール | 116.9 |
| 6 | 特別展示室 | 70.4 | 19 | 多目的ﾄｲﾚ | 6.5 |
| 7 | EV 機械室 | 6.0 | 20 | 女子ﾄｲﾚ | 22.5 |
| 8 | 倉　庫 | 3.5 | 21 | 書　庫 | 16.7 |
| 9 | 倉　庫 | 3.0 | 22 | 更衣室 | 14.6 |
| 10 | E. V | 5.1 | 23 | 倉　庫 | 8.8 |
| 11 | 講　堂 | 110.2 | 24 | 事務室 | 69.6 |
| 12 | ﾄｲﾚ | 8.1 | 25 | 休憩室 | 32.5 |
| 13 | 倉　庫 | 5.4 | 廊下、階段等 | | 176.7 |

| 2階　686.14 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 名　称 | | 面積 | 名　称 | | 面積 |
| 26 | 展示室 | 290.0 | 31 | 研究室 | 34.8 |
| 27 | ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室 | 14.9 | 32 | 資料庫 | 34.8 |
| 28 | 展示室 | 113.6 | 33 | 図書室 | 34.8 |
| 29 | 男子ﾄｲﾚ | 18.2 | 34 | 資料庫 | 16.0 |
| 30 | 収蔵庫 | 42.1 | 廊下階段等 | | 86.9 |

| 3階　116.8 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 名　称 | | 面積 | 名　称 | 面積 |
| 35 | 展示室 | 94.6 | 階段 | 22.2 |

| 地階　159.2 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 名　称 | | 面積 | 名　称 | 面積 |
| 36 | 機械室 | 118.8 | 階段 | 17.4 |
| 37 | 車　庫 | 23.0 | | |



## 3　付属施設

### (1) 付属園（付属動植物園）　※本館隣

**①施設の概要**　　敷地面積：39,875.92 ㎡

**②建物の概要**（建設年度順）　※B-8・10 については放飼場の面積を除く

| 施設名・構造・建築面積(築年度) | | | 施設名・構造・建築面積(築年度) | | | 施設名・構造・建築面積(築年度) | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| B-1 | CB 造 | 28.20(S38→S55 移設) | B-8 | CB 造 | 26.92(H1) | A-10 | 木造 | 52.00(H21) |
| B-2 | CB 造 | 14.79(S38→S55 移設) | B-9 | CB 造 | 34.83(H3,4) | A-11 | 木造 | 42.00(H27) |
| B-3 | CB 造 | 22.62(S53) | B-10 | CB 造 | 5.20(H3) | A-12 | 木造 | 33.00(H27) |
| B-4 | ﾊﾟﾈﾙ造 | 39.63(S54･55) | B-11 | 鉄骨造 | 67.65(H4) | A-13 | 木造 | 19.13(H27) |
| B-6 | ﾊﾟﾈﾙ造 | 18.99(S60,61) | B-12 | 鉄骨造 | 86.44(H7) | A-14 | 木造 | 146.16(H29) |
| B-7 | CB 造 | 46.50(S61) | | | | | | |

### (2) 山岳図書資料館　※本館隣

**①施設の概要**

・構造・規模：鉄骨造　地上 2 階
・竣工・開館：平成 24 年 3 月 2 日竣工　平成 24 年 4 月 20 日開館
・各　面　積：敷地面積 498.21 ㎡　建築面積 59.96 ㎡
　　延床面積 117.45 ㎡（1 階 58.725 ㎡、2 階 58.725 ㎡）
・設備・備品：ハンドル式移動書架 18 基　固定式書架（各種）29 基　ほか

# Ⅹ　利用案内（令和２年３月 31 日現在）

1　**開館時間**　午前９時～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）

2　**休館日**　毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　７月・８月は無休

3　**交通**　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシー5 分、徒歩 25 分
車　長野自動車道安曇野 IC から 40 分
（北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス５台収容）

4　**観覧料**

| 区　分 | 大　人 | 高校生 | 小・中学生 |
|---|---|---|---|
| 個　人 | 400 円 | 300 円 | 200 円 |
| 団　体（30 名様以上） | 350 円 | 250 円 | 150 円 |

5　**ユニバーサルデザイン**
入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応
エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタントドッグ同伴可能

6　**所在地および連絡先**
〒398-0002 長野県大町市大町 8056－1
（標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL：https://www.omachi-sanpaku.com

**市立大町山岳博物館　令和元年度 年報**

2020(令和 2)年 6 月 30 日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211 / FAX:0261-21-2133
印刷･製本　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL:0261-22-3030 / FAX:0261-23-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。